

天竜川水系 伊那圏域
河川整備計画
(原案)



2024年（令和6年）7月

長野県

目 次

| | | |
|-------|---|----|
| 第 1 章 | 対象圏域と河川の現状 | 1 |
| 第 1 節 | 対象圏域の概要 | 1 |
| 第 2 節 | 圏域内河川の現状と課題 | 6 |
| 第 2 章 | 河川整備計画の目標に関する事項 | 13 |
| 第 1 節 | 計画対象区間 | 13 |
| 第 2 節 | 計画対象期間 | 13 |
| 第 3 節 | 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標 | 13 |
| 第 4 節 | 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標 | 19 |
| 第 5 節 | 河川環境の整備と保全に関する目標 | 20 |
| 第 6 節 | 河川の維持管理に関する目標 | 20 |
| 第 3 章 | 河川整備の実施に関する事項 | 21 |
| 第 1 節 | 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに該当河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要 | 21 |
| 第 2 節 | 河川の維持の目的、種類及び施行の場所 | 24 |
| 第 4 章 | 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項 | 26 |
| 第 1 節 | 河川情報の提供に関する事項 | 26 |
| 第 2 節 | 地域や関係機関との連携等に関する事項 | 26 |

●附 図

第1章 対象圏域と河川の現状

第1節 対象圏域の概要

長野県においては、^{てんりゅうがわ}天竜川水系の流域が県土のほぼ南半分を占めています。河川整備計画の策定に際しては、地形や地域特性からこの流域を3圏域(諏訪圏域・伊那圏域・飯田圏域)に区分するものとします。このうち、伊那圏域は本流域の上流～中流にあたり、伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村と岡谷市、塩尻市の一部を含む4市3町3村で構成され、その中央部に天竜川が南流しています。



図-1 伊那圏域位置図

(地形・地質)

天竜川流域は我が国の中央部に南北に位置しています。源流は長野県と山梨県にまたがる八ヶ岳連峰の赤岳 (2,899m) で、諏訪盆地に集まった水は諏訪湖の釜口水門から「天竜川」として流出します。その後赤石山脈 (南アルプス) と木曾山脈 (中央アルプス) にはさまれた伊那谷 (伊那盆地) を経て長野・愛知・静岡県境の山間部を流下し、遠州平野に出て三方原台地と磐田原台地間の低地を流れ、遠州灘に注ぎます。

伊那圏域を含む伊那谷は南北約60km、最大幅10kmの狭長な盆地です。北部は標高約700m、南部は約350mです。南北に細長いこの盆地は、木曾山脈や赤石山脈が断層運動したために、相対的にできた地溝と考えられています。隆起した伊那谷の両側の山地から大量の土砂が運び込まれて堆積し、断層運動や堆積作用の繰り返しにより盆地の周囲には扇状地や河岸段丘が形成されています。

天竜川流域一帯には、古生代から新生代にかけての各時代の堆積層や各種の火成岩、これらを原岩とする変成岩類が広く分布しています。また、上流域には中央構造線、糸魚川 - 静岡構造線が走っていることに加えて、険しい地形のため山が崩れやすく、流れ出る土砂の量の膨大さもわが国有数の河川となっています。

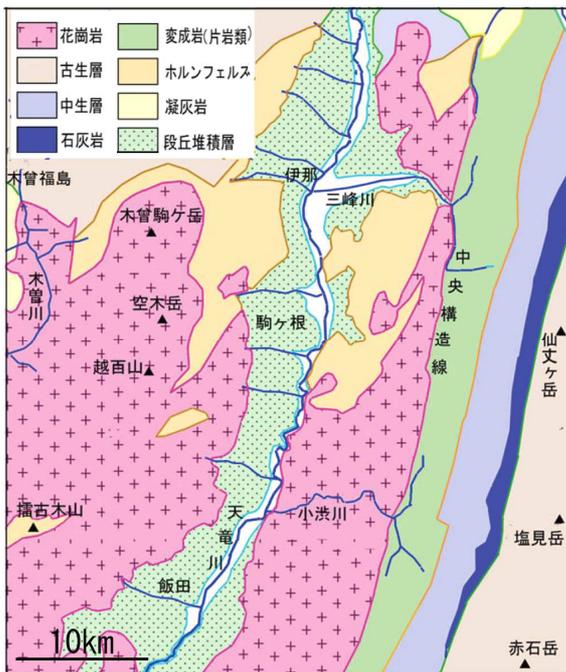


図-2 伊那谷の地質概略図

(水谷武司(2018)防災基礎講座地域災害環境編

45. 伊那谷. 防災科学技術研究所 HP)

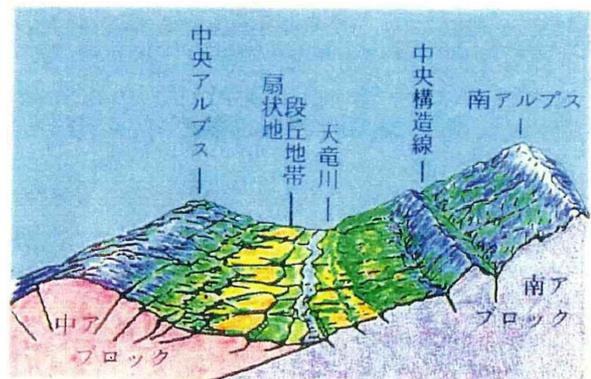


図-3 伊那谷の地質断面図

(松島信幸原図)

(気候)

当圏域は、内陸性の気候を示しており年間降水量は1300～1900mm程度です。年間の降雨量は少ないですが梅雨期及び台風期には降雨が集中することが多いです。

また、伊那市における年平均気温は11℃程度と冷涼な気候であるとともに、寒暖の差が激しい気候となっています。

(土地利用)

圏域の土地利用は山林及び田や畑等の耕作地の割合が多くなっています。宅地は圏域の中核都市である伊那市に集中しています。

また、流域内の宅地、耕作地等の資産の多くは、天竜川沿いの低平地に集約されています。低平地の多くは、水田や畑、果樹園等の耕作地が中心ですが、辰野町、箕輪町、伊那市では天竜川沿いにまで市街地が広がっている状況です。

(人口・産業)

圏域の総人口は179,892人(2020年(令和2年)10月現在)です。総人口のうち伊那市が約66,000人と圏域の約1/3以上を占めています。人口は伊那市を中心として2005年(平成17年)前後までは増加傾向が見受けられましたが、現在では南箕輪村を除き圏域全体で減少傾向にあります。

主な産業は、電気・精密・機械等の製造業であり、製造業の占める割合は32%と長野県平均の21%を大きく上回っています。また、農業は恵まれた広大な農地を利用した伊那米や野菜・花卉・畜産の総合産地としての地位を築いています。

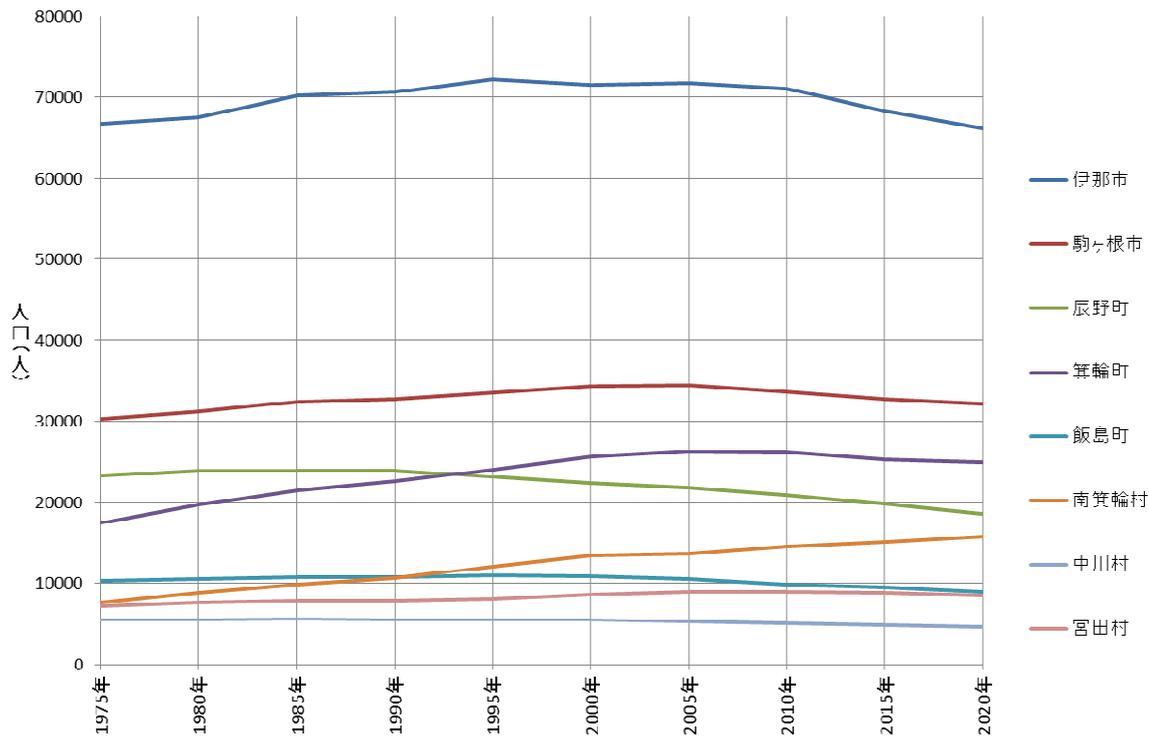


図-4 圏域内の市町村別人口の推移
(長野県統計書・国勢調査結果)

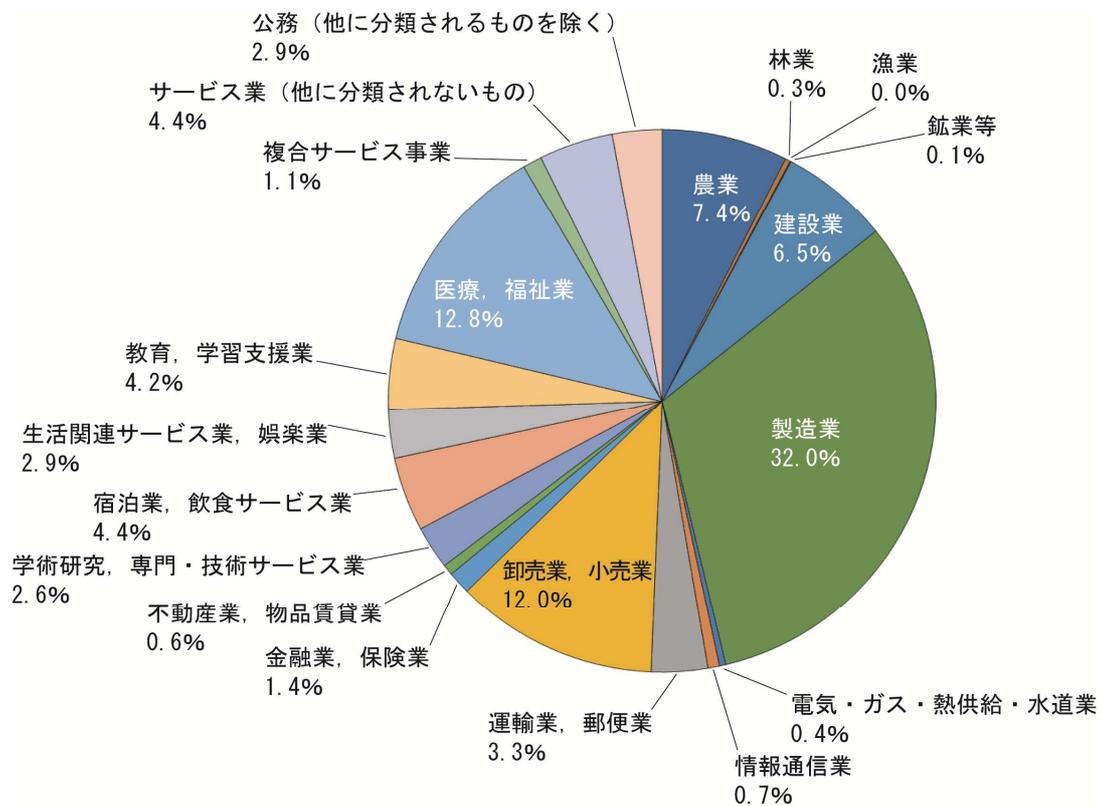


図-5 圏域内の産業構成
(2020年(令和2年)国勢調査結果)

(風土・文化等)

伊那圏域を含む伊那谷は、東は赤石山脈（南アルプス）、西は木曾山脈（中央アルプス）に挟まれ、南北は山地や湖により囲まれた地域です。江戸時代にはこのような伊那谷を統治するために領地が細分化され複雑な領域支配が展開されました。この支配構造は、治水政策にも重大な影響を与え、為政者が異なればその治水政策も異なるように天竜川水系で一貫した治水政策がとられることは無かったようです。

一方、一定の領地から少しでも多くの年貢を取るために新田の開発が奨励され、開発は氾濫原にまでおよび、川普請が盛んに行われています。

また、伊那圏域内には、文化財保護法に基づく指定文化財（国指定 19、県指定 45、市町村指定 357：2023 年（令和 5 年）3 月現在の各市町村最新公表資料の合計（重複あり））が数多く指定されており、多くの観光客も訪れています。

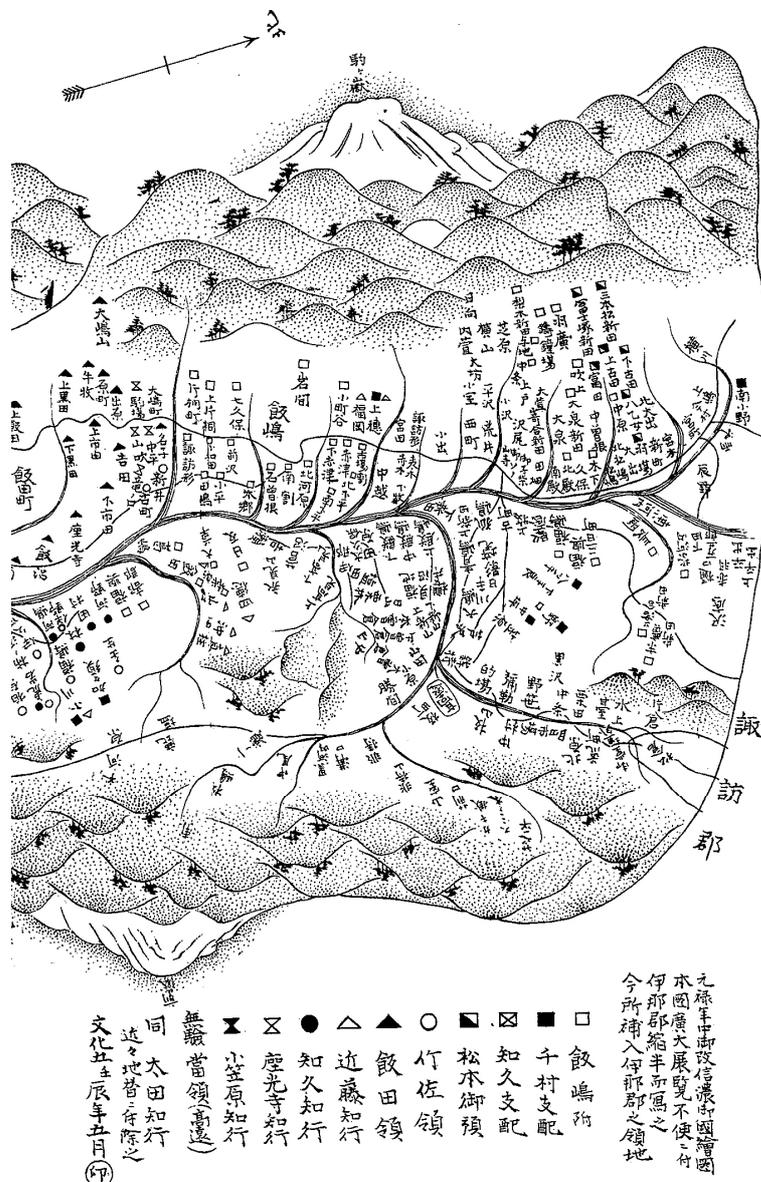


図-6 江戸時代の伊那谷の支配
(佐野重直編(1901)南信伊那史料(部分、改変))

(自然環境)

圏域内の伊那市の植物相をみると、北方型の要素を一部にもちながら一面に日本型を示しているともいえます。山地のモミの仲間からみても低山の方からモミ・ウラジロモミ・シラビソ・オオジラビソになっています。ウラジロモミとシラビソは西日本から表日本、関東まで分布していますが、オオジラビソは本州の中部から北部の亜高山帯に分布しているもので北方系のものといえます。また、1,000m以下の低山にはモミ、1,000mから上にウラジロモミ、1,500mを越すとシラビソが生えています。

圏域内の動物は、寒暖の差が激しい内陸性気候であること、地形的にも植生的にも複雑であるとともに、西を木曾山脈（中央アルプス）、東を赤石山脈（南アルプス）に囲まれた自然豊かな環境であるため、多種多様な動物が生息しています。

- ・ほ乳類については、サル、シカ、カモシカ、イノシシ、タヌキ、ツキノワグマ、モグラ、ムササビ、イタチ、野ウサギ、キツネ、リス等の生息が確認されています（伊那市史・自然編より）。
- ・鳥類については、伊那地方で約100種の分布が確認されています。これは日本全体で見られる種類の約40%にあたり、県内でも豊富な種構成をもった地方であるといえます。
- ・西山に源を発する大泉川・小沢川・小黒川・犬田切川・藤沢川（伊那市）などの各支流は、天竜川合流点付近では流れも比較的ゆるやかです。上流にさかのぼるにしたがって急流が岩をかみ、イワナ・アマゴなどの絶好のすみかとなるよい淵をつくっています。
棚沢川・新山川・大沢川（伊那市）など天竜川の左支川の河川では、川幅が狭く、勾配も右支川に比べて緩やかです。瀬や淵が多く、イワナ・アマゴなどの良い生息場所になっています。
- ・伊那地方は、昆虫類の宝庫として多数の種類と個体数を持ち、さらに貴重な昆虫類も多い地域です。

第2節 圏域内河川の現状と課題

第1項 治水に関する現状と課題

本圏域は、天竜川流域の上流～中流に位置し、大小合わせて102河川から構成されています。それらは日本でも有数の山地である木曾山脈（中央アルプス）、赤石山脈（南アルプス）等から流れ出ているため、ほとんどの河川が河床勾配の急な急流河川です。また、天竜川本川との支川合流点付近の平坦部において市街地が集積しているため、この地域において一旦洪水が発生すると、浸水被害が大きくなることも圏域河川の特徴です。

圏域の河川改修は、昭和の初頭より天竜川、三峰川等を中心に行われてきました。主な河川改修は表-1のとおりです。1964年（昭和39年）の河川法の改正により天竜川水系は1965年（昭和40年）4月に一級河川となり、これ以降圏域の河川は一定計画に基づく改修が進められています。また、横川川においては、治水ダム建設事業により横川ダム（1986年（昭和61年）完成）が建設されたほか、沢川においても、総合開発事業により、箕輪ダム（1992年（平成4年）完成）が建設されています。さらに三峰川においても、建設省（現

国土交通省)により、美和ダムが建設(1959年(昭和34年)完成)されています。

しかし、河川改修の多くが局部改良工事や災害復旧工事であり、全川の改修にまで至っていないのが実状であり、1961年(昭和36年)、1965年(昭和40年)、1969年(同44年)、1982年(同57年)、1983年(同58年)、1991年(平成3年)、1999年(同11年)と立て続けに梅雨前線や台風による集中豪雨に襲われ、圏域内に甚大な被害が発生しています。近年では、2006年(平成18年)7月の梅雨前線豪雨や2020年(令和2年)7月の豪雨、2021年(令和3年)8月の豪雨により多大な被害を受け、より高い治水安全度の確保が望まれています。

美和ダム、三峰川については、山地が荒廃していることによる堆積物の供給が多く、美和ダムでは再開発事業により排砂バイパストンネル等、湖内堆砂対策が建設されています。

また、近年の人口増加により治水安全度の向上が必要です。一方、高度土地利用等による流域からの流出増加等により治水安全度の低下が懸念されています。

以下に、圏域内河川のうち、沿川の人口、資産の集積状況や現況の流下能力、過去の浸水被害等を考慮し、優先的に整備を行う河川の現状を記載します。

【天竜川】

天竜川は、諏訪湖からの唯一の流出河川であり、釜口水門から流出し、圏域内の中央を北から南へと流下している河川です。天竜川では、昭和の初頭より順次改修が行われており、釜口水門からの放流量の更なる増加を可能とする河道掘削や河岸の侵食対策を段階的に進めています。

今後も下流の国管理区間の改修に合わせ、治水安全度を向上させる必要があります。

【小沢川】

小沢川は、圏域の中核都市である伊那市の市街地を流下する河川です。市街地を流下するために、河川の拡幅等による流下能力の確保が難しく、下流部の市街地区間の改修が遅れていました。この未改修区間が狭窄となり、流下能力が不足していることによりしばしば洪水氾濫の危険性に見まわれています。近年の更なる市街化により、その危険性は顕著となってきています。特に荒井区、川北区等は河道狭窄部に位置し、洪水の被害発生の危険性が高くなっています。河道改修により治水安全度を向上させることが課題です。

【駒沢川】

駒沢川は、上伊那郡辰野町と塩尻市との境にある霧訪山(1,305m)に源を発し、山間部を南流した後、辰野町小野地区を流れ小野川に合流する河川です。小野川合流付近では、1961年(昭和36年)6月、1963年(昭和38年)7月及び1971年(昭和46年)8月の梅雨前線豪雨等の溢水被害を受けて、局部的に護岸整備を実施しています。しかしながら近年増加している集中豪雨により、上中流域の河岸侵食による河道閉塞の恐れがあり、洪水の被害発生の危険性が高くなっています。このことから、河川改修により流下能力の向上や河岸の侵食対策を図り、治水安全度を向上させる必要があります。

【大沢川】

大沢川は、伊那谷東方の高鳥谷山^{たかすやさん}（1,331m）から北及び西方に延びる尾根から沢水を集め北へ流下した後、伊那市富県北福地^{とみがたきたふくち}付近で南西方に転じて同市東春^{ひがしはるちかしものしま}近下殿島で伊那谷（盆地）に入り、しばらく天竜川と並行した後同左岸に合流します。

過去たびたび洪水が発生し河川改修が行われ、1990年度（平成2年度）には下流部の局部改良工事が行われています。また、2006年度（平成18年度）の浸水被害では住宅街で改修を実施しています。しかし、その上流端から竹松川合流点までの区間（約2.19km）については流下能力が不足しており洪水被害の発生の危険性が高くなっていることから、河道改修により治水安全度を向上させることが課題です。

【大清水川】

大清水川は、木曾山脈（中央アルプス）^{きょうがたけ}経ヶ岳南東方の山城を源流とし、伊那市西箕輪^{にしみのわ}地区で伊那谷（盆地）に入り段丘化した複合扇状地を削って南東へ流下し、伊那市街地を抜けて天竜川右岸に合流しています。

特に県道南箕輪沢渡線^{みなみみのわさわんど}が横断する前後区間では流下能力が不足しており、2012年（平成24年）7月の豪雨時には溢水し、周辺の田畑が浸水する被害が発生したことから、河道改修により治水安全度を向上させることが課題です。

表-1 圏域内の主な河川改修

| 河川名 | 市町村名 | 改修延長(km) | 河川名 | 市町村名 | 改修延長(km) |
|-------|------|----------|------|------|-----------------------------|
| 小沢川 | 伊那市 | 1.6 | 田沢川 | 駒ヶ根市 | 3.4 |
| 小沢川 | 伊那市 | 5.4 | 田沢川 | 駒ヶ根市 | 0.7 |
| 大沢川 | 伊那市 | 9.4 | 瀬沢川 | 伊那市 | 2.6 |
| 大沢川 | 宮田村 | 5.2 | 瀬沢川 | 箕輪町 | 0.6 |
| 鼠川 | 駒ヶ根市 | 3.8 | 前沢川 | 中川村 | 7.6 |
| 鼠川 | 駒ヶ根市 | 0.6 | 日向沢川 | 飯島町 | 6.3 |
| 鼠川 | 駒ヶ根市 | 3.8 | 手取沢川 | 中川村 | 3.2 |
| 大泉川 | 南箕輪村 | 6.6 | 中田切川 | 駒ヶ根市 | 12.0 |
| 小田切川 | 宮田村 | 8.0 | 七面川 | 駒ヶ根市 | 3.6 |
| 保谷沢川 | 伊那市 | 0.7 | 七面川 | 駒ヶ根市 | 0.8 |
| 保谷沢川 | 宮田村 | 0.3 | 下間川 | 駒ヶ根市 | 5.0 |
| 保谷沢川 | 中川村 | 3.2 | 新宮川 | 駒ヶ根市 | 4.8 |
| 太田切川 | 駒ヶ根市 | 12.7 | 新宮川 | 駒ヶ根市 | 4.7 |
| 横川川 | 辰野町 | 5.0 | 大曾倉川 | 駒ヶ根市 | 5.3 |
| 横川川 | 辰野町 | 11.3 | 天王川 | 駒ヶ根市 | 3.1 |
| 棚沢川 | 伊那市 | 6.0 | 猪の沢川 | 伊那市 | 3.2 |
| 天竜川 | 辰野町 | 1.2 | 犬田切川 | 伊那市 | 5.1 |
| 天竜川 | 辰野町 | 2.9 | 三峰川 | 伊那市 | 22.2 |
| 上穂沢川 | 駒ヶ根市 | 5.2 | 新山川 | 伊那市 | 5.4 |
| 藤沢川 | 伊那市 | 6.1 | 松倉沢 | 伊那市 | 4.0 |
| 藤沢川 | 伊那市 | 7.0 | 山室川 | 伊那市 | 9.0 |
| 藤沢川 | 伊那市 | 6.1 | 山室川 | 伊那市 | 5.0 |
| 古田切川 | 駒ヶ根市 | 2.4 | 黒川 | 伊那市 | 12.8 |
| 古田切川 | 駒ヶ根市 | 0.3 | 小黒川 | 伊那市 | 13.4 |
| 如来寺川 | 駒ヶ根市 | 3.1 | 深沢川 | 箕輪町 | 4.8 |
| 小横川川 | 辰野町 | 8.5 | 沢川 | 箕輪町 | 18.7 |
| 大清水川 | 伊那市 | 3.6 | 桑沢川 | 箕輪町 | 3.1 |
| 大清水川 | 南箕輪村 | 3.3 | 北之沢川 | 辰野町 | 3.2 |
| 唐沢川 | 駒ヶ根市 | 1.5 | 沢底川 | 辰野町 | 4.9 |
| 唐沢川 | 飯島町 | 2.0 | 飯沼川 | 辰野町 | 4.5 |
| 子生沢川 | 飯島町 | 4.7 | 上野川 | 辰野町 | 6.4 |
| 宮沢川 | 伊那市 | 2.2 | 黒川 | 宮田村 | 11.9 |
| 宮沢川 | 駒ヶ根市 | 0.8 | 中御所川 | 宮田村 | 5.7 |
| 宮沢川 | 駒ヶ根市 | 0.7 | 戸台川 | 伊那市 | 8.1 |
| 駒沢川 | 辰野町 | 3.9 | 小黒川 | 伊那市 | 11.8 |
| 藤巻川 | 飯島町 | 2.0 | 一の沢川 | 箕輪町 | 5.6 |
| 十王堂沢川 | 飯島町 | 1.9 | 四徳川 | 中川村 | 7.3 |
| 郷沢川 | 飯島町 | 2.3 | | | |
| 郷沢川 | 飯島町 | 2.5 | | | |
| 帯無川 | 箕輪町 | 0.8 | | | |
| 帯無川 | 箕輪町 | 0.6 | 横川ダム | 辰野町 | H=41m, V=105千m ³ |
| 帯無川 | 箕輪町 | 3.8 | 箕輪ダム | 箕輪町 | H=72m, V=307千m ³ |

第2項 利水に関する現状

伊那圏域の流水は、農業用水や上水道用水等として利用されていますが、主には農業用として取水が行われています。

沢川においては、箕輪ダムの貯留により伊那市、駒ヶ根市、箕輪町、南箕輪村及び宮田村の上水道用水（日最大 50,000m³）に利用されています。また、横川川においては、横川ダムの貯留により、かんがい用水に利用されています。

本圏域の河川において、近年は、顕著な渇水被害は発生していません。諏訪湖の釜口水門では常時取水量の合計 8.4m³/s が責任放流量（維持放流量）として設定されていますが、過去には維持放流量を確保できない渇水時期がありました。

第3項 河川環境に関する現状と課題

圏域周辺の山々は、南アルプス国立公園、中央アルプス国立公園、三峰川水系県立自然公園、天竜小渋水系県立自然公園等に指定されており、良好な自然環境を有しています。

水質については、天竜川は三峰川より上流がB類型、下流部がA類型に、横川川はAA類型、三峰川はA類型に指定されており、環境基準点での水質は、ここ数年は環境基準に適合しています。

河川空間の利用面では、天竜川沿いのほたる童謡公園、与田切川沿いの与田切公園等の親水公園が市民の憩いの場として利用されています。また、川沿いにはキャンプ場も多く、夏になると魚釣りや川遊び等、川を利用する人も多い状況です。このような状況を踏まえ、良好な河川環境の保全が望まれています。

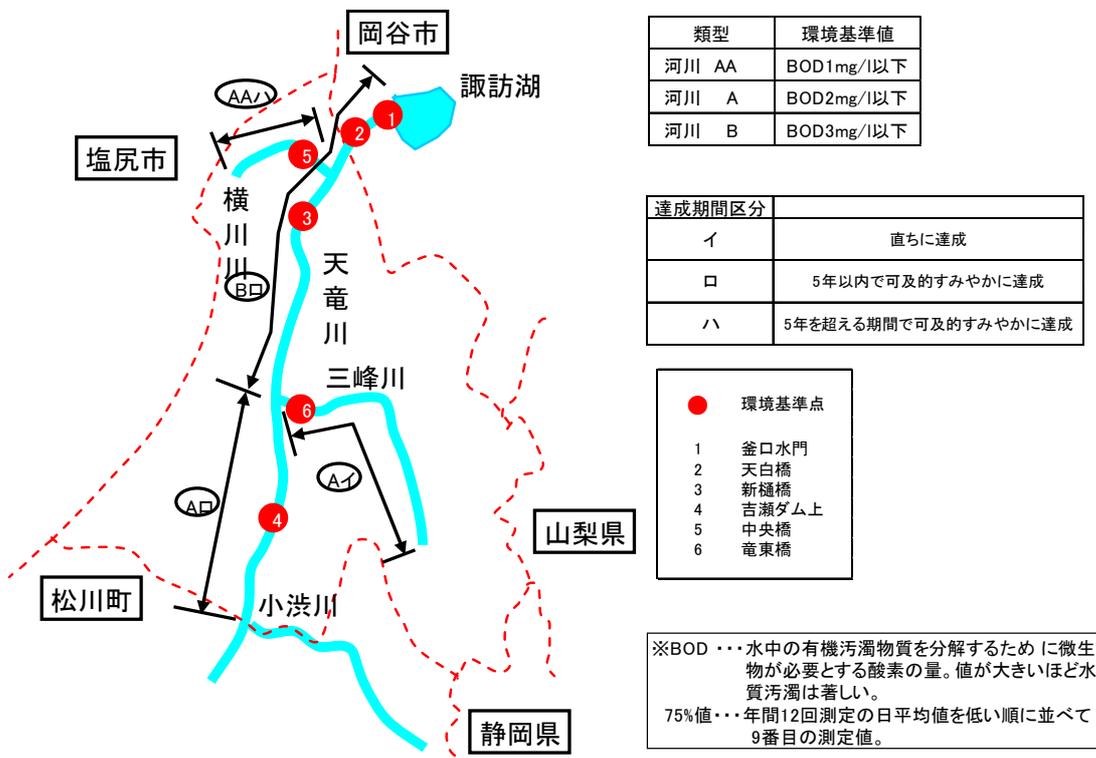


図-7 圏域の水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定状況

(長野県 令和4年度水質測定結果)

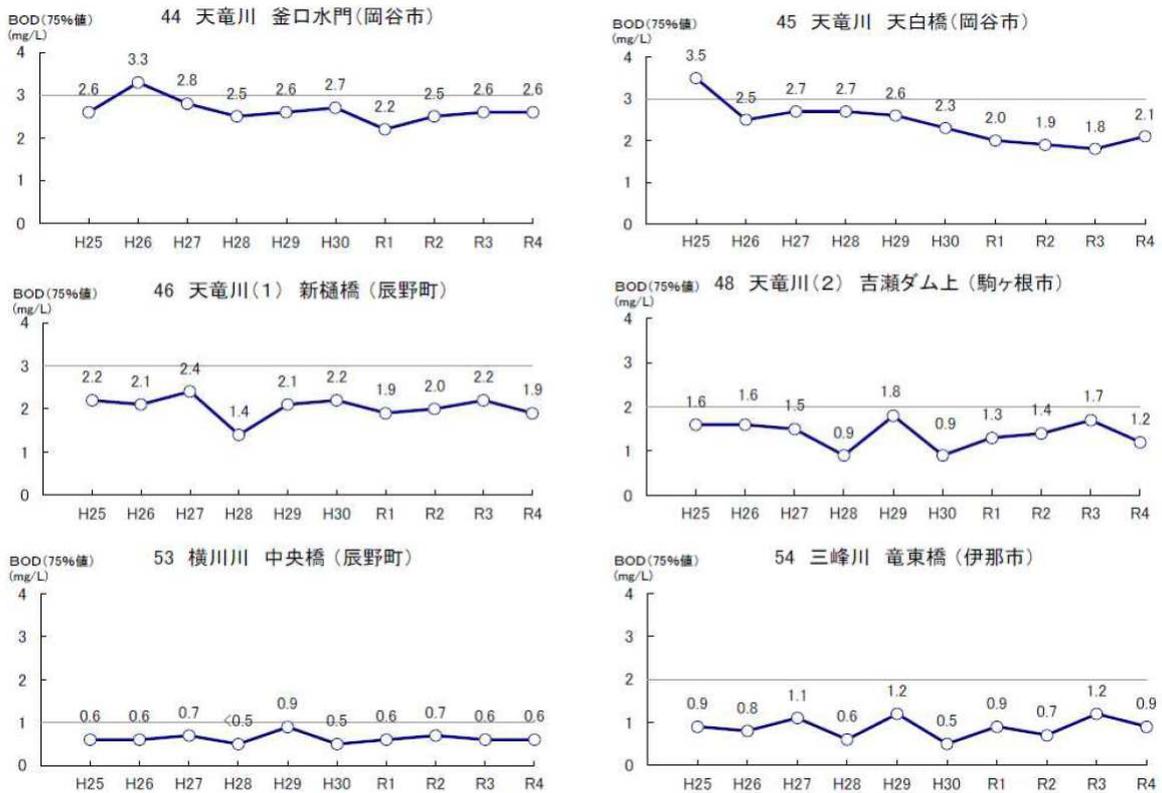


図-8 河川の水質の推移 (BOD75%値)

(長野県 令和4年度水質測定結果)

第4項 河川の維持、管理の現状と課題

河川の豊かな自然環境を守る河川愛護団体の活動は、圏域の各地で行われており、顕著な活動としては、辰野のほたる祭りを中心とした河川の保全や、伊那市の河川一斉清掃があげられ、地域ぐるみによる河川の草刈やゴミ拾いが行われています。また、アダプトシステム協定締結団体（河川愛護団体）として97団体が登録されており（2023年（令和5年）4月現在）、自主的な愛護活動を行っています。しかし、良好な河川環境を保全していくためには、より一層地域の状況にきめ細かく対応していくことが肝要であり、河川管理者と地域住民とがより十分なコミュニケーションを図り、今まで以上に協力関係を築き、住民が積極的に河川管理に参加することが必要です。

圏域内では、各水防管理団体において水防計画等が作成され、定期的な点検・パトロールを実施するような体制整備が図られています。

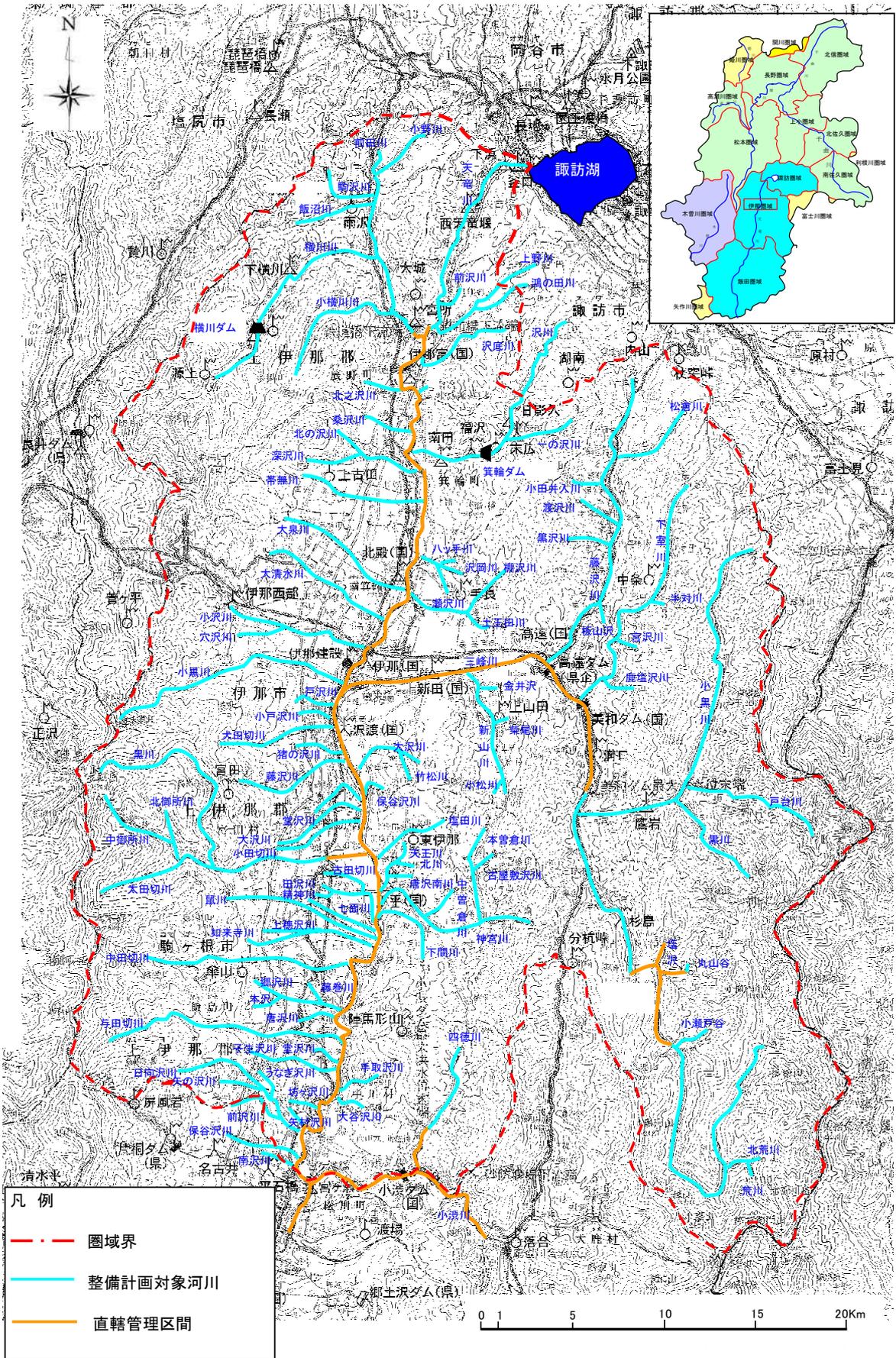


図-9 計画対象圏域図

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

伊那圏域の河川整備にあたっては、河川改修、砂防事業の現状、水害発生状況、河川の利用の現況、河川環境の保全を考慮し、長野県総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン3.0)、長野県水環境保全総合計画、長野県環境基本計画、天竜川水系河川整備基本方針及び国管理区間の天竜川水系河川整備計画、天竜川上流流域治水プロジェクト、長野県流域治水推進計画等との整合を図り、まちづくりや土地改良事業等と一体となった河川整備を行うものとします。

なお、本整備計画は、流域の社会情勢の変化、自然状況・河川状況の変化、地域の意向等を適切に反映できるよう適宜見直しを行うものとします。

第1節 計画対象区間

本河川整備計画の対象とする区間は、表-2 伊那圏域の対象区間のとおり、一級河川102河川、総延長は約497kmとします。

第2節 計画対象期間

本整備計画の対象期間は、河川整備の実施に関する事項に記載されている河川整備が一連の効果を発現する期間として、概ね20年間とします。

ただし、天竜川については、国の整備計画と整合性を図り、下流部の国管理区間と一連の効果を発現する期間として、概ね30年間とします。

第3節 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

河川整備計画対象河川のうち、沿川の人口・資産の集積状況、災害の発生状況、現況の流下能力等を考慮すると、洪水による被害が発生した河川、もしくは被害の発生の危険度が高い河川や想定される被害の大きな河川として、天竜川、小沢川、駒沢川、大沢川、大清水川が整備の必要な河川に上げられ、その5河川の整備を優先的に行います。

また、整備にあたっては各河川で想定した規模の洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保することを目標とします。

なお、天竜川本川の整備に影響がある箇所については、国と連携・調整を行います。

以下に優先整備河川の整備目標を記載します。

【天竜川】

沿川の人口や資産の集積状況、災害の発生状況、流域内の土地利用、他河川の改修計画規模とのバランスを考慮するとともに、下流の国管理区間との整合を図り、河積の拡大により釜口水門からの放流量500m³/sを安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、岡谷市川岸地区及び岡谷市湊地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標と

します。

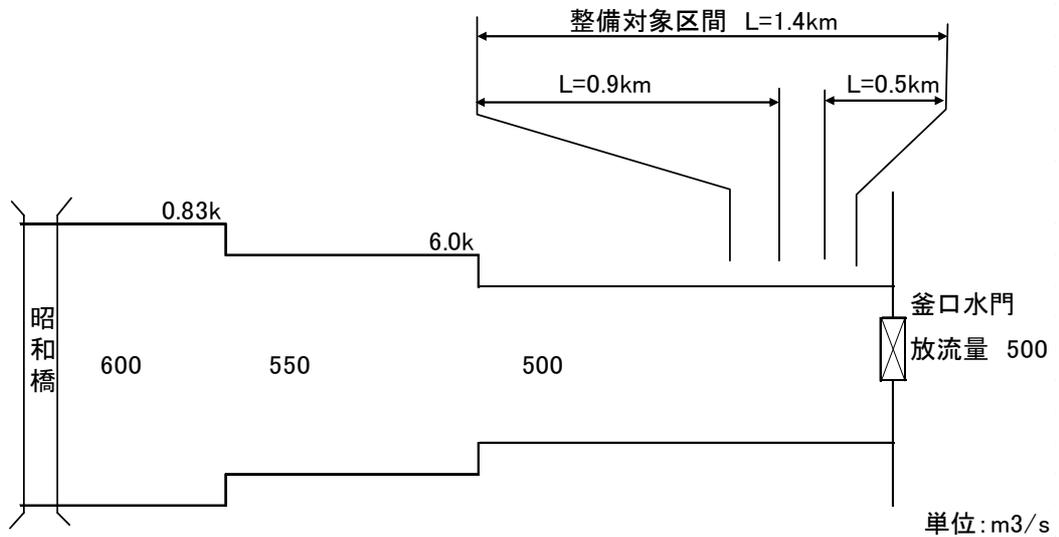


図-10 天竜川流量配分図

【小沢川】

沿川の人口や資産の集積状況、災害の発生状況、流域内の土地利用、他河川の改修計画規模とのバランスを考慮して、河積の拡大により 50 年に 1 回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、伊那市街地の荒井地区、川北地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標とします。

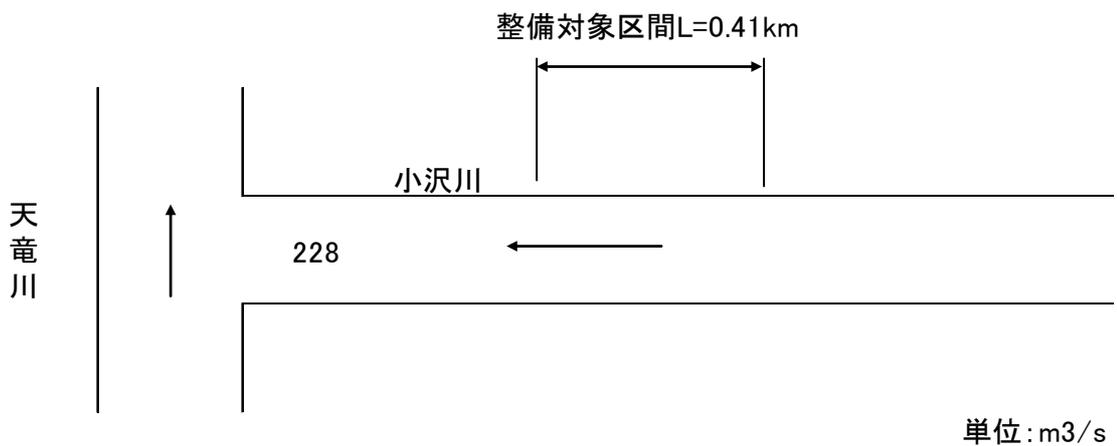


図-11 小沢川流量配分図

【駒沢川】

沿川の人口や資産の集積状況、災害の発生状況、流域内の土地利用、他河川の改修計画規模とのバランス及び下流の改修状況を考慮して、河積の拡大等により、30年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、辰野町小野地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標とします。

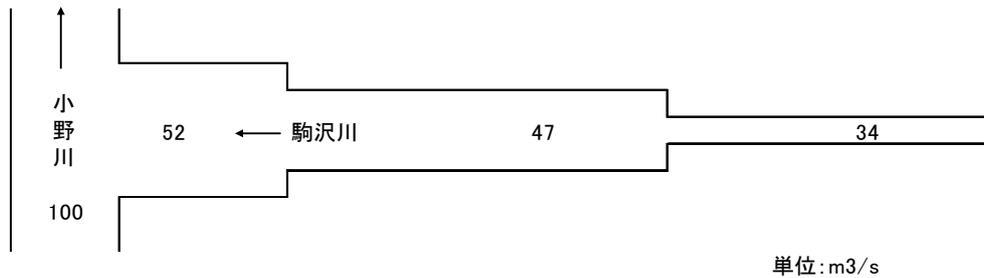


図-12 駒沢川流量配分図

【大沢川】

沿川の人口や資産の集積状況、災害の発生状況、流域内の土地利用、他河川の改修計画規模とのバランスを考慮して、河積の拡大により30年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、伊那市東春近下殿島地区、田原地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標とします。

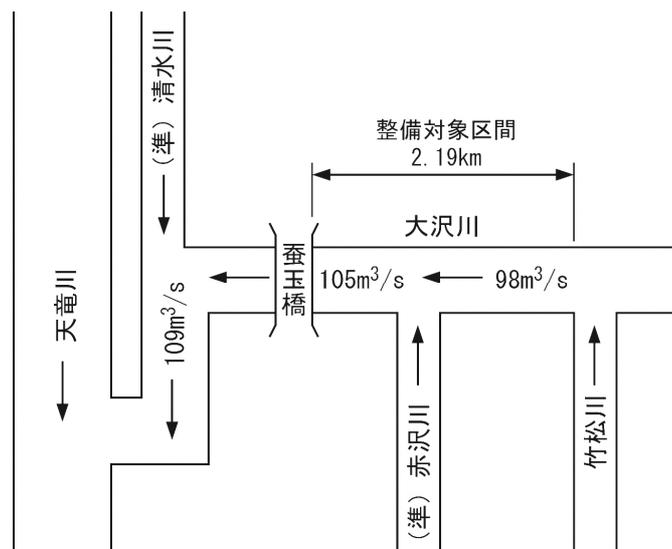


図-13 大沢川流量配分図

【大清水川】

沿川の人口や資産の集積状況、災害の発生状況、流域内の土地利用、他河川の改修計画規模とのバランスを考慮して、河積の拡大により30年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水を安全に流下させることのできる治水安全度を確保し、南箕輪村御子柴地区において家屋等への浸水被害を防止することを目標とします。

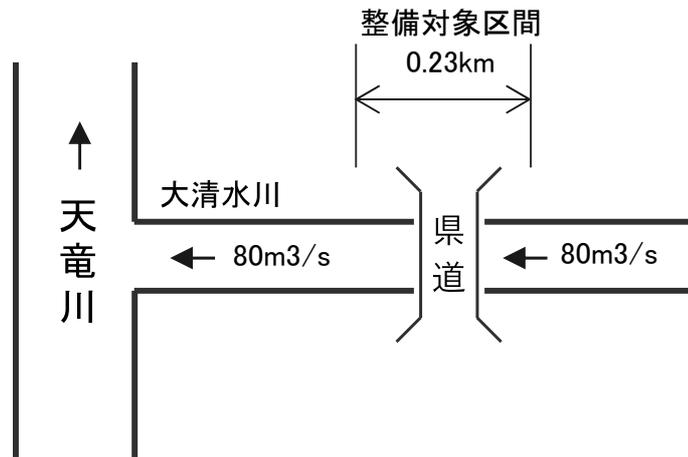


図-14 大清水川流量配分図

表-2 伊那圏域の対象区間

| 河川名 | 区 間 | | 河川延長 (km) |
|-------|---|--|--------------|
| | 上 流 端 | 下 流 端 | |
| 天竜川 | 岡谷市湊一丁目5935番地のへの3地先の釜口水門 | 上伊那郡辰野町大字平出字平出1697番地の2地先の町道橋 | 11.500 |
| 四徳川 | 上伊那郡中川村292番ナ号の2の3地先 | 上伊那郡中川村大字大草字六郷7495番地の1地先 同村同大字字ホツキ7500番の2地先 | 7.303 |
| 南沢川 | 下伊那郡松川町大字上片桐3634番地先 同町同大字3701番地先 | 天竜川への合流点 | 2.110 |
| 保谷沢川 | 豊野川の合流点 | 天竜川への合流点 | 3.170 |
| 前沢川 | 上伊那郡飯島町大字七久保字鑄物師原5193番の2地先 | 天竜川への合流点 | 7.638 |
| 日向沢川 | 上伊那郡飯島町大字七久保字三林3017番のイ地先 | 前沢川への合流点 | 6.308 |
| うなぎ沢川 | 上伊那郡飯島町大字七久保字下新田542番地先 同町同大字字本畑433番地先 | 日向沢川への合流点 | 1.980 |
| 矢の沢川 | 上伊那郡飯島町大字七久保字三林3017番の940内地先の矢の沢2号橋 | 日向沢川への合流点 | 2.100 |
| 矢村沢川 | 上伊那郡中川村大字片桐字矢村4351番地先 同村同大字字五十目4350番の2地先 | 天竜川への合流点 | 0.600 |
| 坊ヶ沢川 | 上伊那郡中川村大字片桐字西垣外5013番地先 同村同大字坊林5021番の1地先 | 天竜川への合流点 | 0.700 |
| 大谷沢川 | 上伊那郡中川村大字大草4444番地先 同村同大字4415番地先 | 天竜川への合流点 | 1.600 |
| 手取沢川 | 上伊那郡中川村大字大草2361番の3地先 同村同大字2269番の1地先 | 天竜川への合流点 | 3.200 |
| 子生沢川 | 上伊那郡飯島町大字七久保字赤坂3026番の24地先の県道橋 | 天竜川への合流点 | 4.700 |
| 土王堂沢川 | 上伊那郡飯島町大字本郷字堤久保1974番の11地先の国道橋 | 天竜川への合流点 | 1.900 |
| 与田切川 | 上伊那郡飯島町大字七久保字烏帽子岳裏山3015番の1地先 同町同大字字本谷3919番の5地先 | 天竜川への合流点 | 14.279 |
| 唐沢川 | 上伊那郡飯島町大字飯島字錠口1426番の3地先の国道橋 | 天竜川への合流点 | 2.000 |
| 郷沢川 | 上伊那郡飯島町大字飯島字高尾37018番の4地先 同町同大字字孫太郎3697番の5地先 | 天竜川への合流点 | 4.770 |
| 藤巻川 | 上伊那郡飯島町大字田切字太田2925番地先 同町同大字同字2919番地先 | 郷沢川への合流点 | 2.000 |
| 本沢 | 上伊那郡飯島町大字飯島字横根山3907番の4地先の林道暗渠下流端 | 郷沢川への合流点 | 2.130 |
| 中田切川 | 駒ヶ根市赤穂中田切山21番地先 同市赤穂中田切山18番地先 | 天竜川への合流点 | 11.990 |
| 上穂沢川 | 駒ヶ根市赤穂字南田7278番の1地先 同市赤穂字字ぼう7456番の1地先 | 天竜川への合流点 | 5.200 |
| 如來寺川 | 駒ヶ根市大字赤穂字三ツ石原14番地先 同市同大字同字15番地先 | 上穂沢川への合流点 | 3.100 |
| 鼠川 | 駒ヶ根市中山361番地先 同市同字362番地先 | 天竜川への合流点 | 8.175 |
| 七箇川 | 陳川の合流点 | 天竜川への合流点 | 4.400 |
| 田沢川 | 駒ヶ根市赤穂字芝原田15091番地先 同市赤穂同字15123番地先 | 天竜川への合流点 | 4.130 |
| 宮沢川 | 駒ヶ根市赤穂字宮ノ北11349番地先 同市赤穂字宮ノ越11465番地先 | 田沢川への合流点 | 1.500 |
| 古田切川 | 駒ヶ根市赤穂字古田切14755番地の2地先 同市同大字字石川14799番の14地先 | 田沢川への合流点 | 2.700 |
| 精進川 | 駒ヶ根市赤穂字梨子木15420番の6地先の国道橋 | 田沢川への合流点 | 1.380 |
| 下間川 | 駒ヶ根市中沢字高瀬口562番地先 同市中沢字丸久保5618番の2地先 | 天竜川への合流点 | 5.000 |
| 新宮川 | 駒ヶ根市中沢7077番の2地先 同市中沢7451番の2地先 | 天竜川への合流点 | 9.483 |
| 中曾倉川 | 駒ヶ根市中沢字白ナキ9810番の1地先の市道橋 | 新宮川への合流点 | 1.900 |
| 大曾倉川 | 駒ヶ根市中沢字古道9026番の1地先 同市中沢さみ9041番地先 | 新宮川への合流点 | 5.300 |
| 古屋敷沢川 | 駒ヶ根市中沢字カジ畑8663番地先 同市中沢権の上8838番地先 | 大曾倉川への合流点 | 0.900 |
| 天王川 | 駒ヶ根市東伊那字柏原2999番の1地先 同市東伊那字善之2511番地先 | 天竜川への合流点 | 3.100 |
| 唐沢川 | 駒ヶ根市東伊那字勝利垣外1034番地先 同市東伊那字山田535番の1地先 | 天王川への合流点 | 1.500 |
| 北川 | 駒ヶ根市東伊那字岩壁2680番の5地先の市道橋 | 天王川への合流点 | 1.000 |
| 塩田川 | 駒ヶ根市東伊那字大沢口3931番地先 同市東伊那字戸谷ヶ崎7756番の口地先 | 天竜川への合流点 | 4.200 |
| 太田切川 | 上伊那郡宮田村字中御所4749番地先 駒ヶ根市大字赤穂1番地先 | 上伊那郡宮田村字石原5197番地のイの4地先の太田切橋 | 12.724 |
| 黒川 | 上伊那郡宮田村字北御所4749番地先 | 太田切川への合流点 | 11.990 |
| 中御所川 | 上伊那郡宮田村字中御所4749番地先 | 太田切川への合流点 | 5.668 |
| 北御所川 | 上伊那郡宮田村4749番の1地先の上流端を示す標柱 | 中御所川への合流点 | 1.900 |
| 小田切川 | 上伊那郡宮田村字駒漬2312番の2地先 同村字二ツ屋1925番の8地先 | 天竜川への合流点 | 7.957 |
| 大沢川 | 小田切川からの分派点 | 天竜川への合流点 | 5.197 |
| 堂沢川 | 上伊那郡宮田村字才ノ神376番の2地先の村道橋 | 天竜川への合流点 | 3.590 |
| 保谷沢川 | 伊那市東春近字鈴の入6194番地先 同市同大字東沢5996番地先 | 天竜川への合流点 | 1.030 |
| 大沢川 | 伊那市川富県字東田8026番地の市道橋 | 天竜川への合流点 | 9.420 |
| 竹松川 | 伊那市富県字菅蒲平9003番地の市道橋 | 大沢川への合流点 | 3.020 |
| 藤沢川 | 伊那市西春近字藤沢4373番の1の6地先 同市西春近同字4747番の3地先 | 天竜川への合流点 | 6.104 |

| | 区 間 | | 河川延長 (km) |
|-----------------|---|--|--------------|
| | 上 流 端 | 下 流 端 | |
| いざわがわ 猪の沢川 | 伊那市西春近字猪の山4114番の335地先 同市西春近同字4114番の334地先 | 天竜川への合流点 | 3.150 |
| いぬたごりがわ 犬田切川 | 伊那市西春近字木裏原4107番の4地先 同市大字東春近同字10641番地先 | 天竜川への合流点 | 5.109 |
| こさざわがわ 小戸沢川 | 伊那市西春近字細ヶ谷3282番の50地先の市道橋 | 天竜川への合流点 | 2.520 |
| いせがわ 戸沢川 | 伊那市西春近字中原506番の1地先 同市西春近字銭神原3221番の2地先 | 小戸沢川への合流点 | 1.700 |
| みやがわ 三峰川 | 伊那市長谷浦国有林108林班地先 同市同大字国有林89林班地先 | 伊那市長谷長尾136番地のイ号の1地先 同市長谷黒河内字黒川端2873番地の2地先 | 25.420 |
| にいやまがわ 新山川 | 伊那市富県2132番地先 同市同大字926番地先 | 三峰川への合流点 | 5.400 |
| かみいざわ 金井沢 | 伊那市高遠町上山田428番の1地先の山田取井堰 | 新山川への合流点 | 1.000 |
| しげがわ 栗尾川 | 伊那市富県字寺沢532番の18地先 同市同大字字番場2572番の口地先 | 新山川への合流点 | 0.200 |
| こまつがわ 小松川 | 伊那市富県字大畑1823番の1地先 同市同大字1823番の3地先 | 新山川への合流点 | 1.830 |
| ふじさわがわ 藤沢川 | 伊那市高遠町藤沢6520番地先 | 三峰川への合流点 | 13.080 |
| いたやまがわ 板山沢 | 伊那市高遠町東高遠1777番地先の町道橋 | 藤沢川への合流点 | 0.900 |
| ふさぎがわ 蕨沢川 | 鉢伏沢の合流点 | 藤沢川への合流点 | 2.300 |
| わたしがわ 渡沢川 | 伊那市高遠町藤沢539番地先の町道橋 | 藤沢川への合流点 | 2.800 |
| おたにいざわ 小田井入沢 | 菅田沢の合流点 | 藤沢川への合流点 | 1.000 |
| まつくらがわ 松倉川 | 伊那市高遠町藤沢4947番の4地先の町道橋 | 藤沢川への合流点 | 4.000 |
| やまむらがわ 山室川 | 伊那市高遠町芝平377番の1地先 同市同大字1279番地先 | 三峰川への合流点 | 14.000 |
| かしのさわがわ 鹿塩沢川 | 赤手沢の合流点 | 山室川への合流点 | 2.000 |
| みやがわ 宮沢川 | 伊那市高遠町山室1401番のイ地先 同市同大字1466番の3地先 | 山室川への合流点 | 2.150 |
| はんずいがわ 半対川 | 伊那市高遠町山室3659番の1地先の町道橋下流端 | 山室川への合流点 | 0.820 |
| くろがわ 黒川 | 伊那市長谷黒河内国有林287林班地先 同市同大字国有林284林班地先 | 三峰川への合流点 | 12.753 |
| いせがわ 戸谷川 | 伊那市長谷黒河内国有林269林班地先 | 黒川への合流点 | 8.066 |
| おぐらがわ 小黒川 | 伊那市長谷黒河内国有林221林班地先 同市同大字国有林219林班地先 | 戸台川への合流点 | 11.772 |
| まるやまがわ 丸山谷 | 伊那市長谷浦字丸山1938番のイ地先 | 伊那市長谷浦1938番地の161地先 同市長谷浦1938番地の212地先 | 0.300 |
| こさざわがわ 小瀬戸谷 | 伊那市長谷浦国有林第2林班地先 | 三峰川への合流点 | 0.300 |
| あらかわ 荒川 | 伊那市長谷浦国有林68林班地先 | 三峰川への合流点 | 1.660 |
| きたがわ 北麓川 | 伊那市長谷浦国有林第68林班地先 | 荒川への合流点 | 0.150 |
| おぐらがわ 小黒川 | 伊那市伊那729番の15地先 同市同大字7055番の1地先 | 天竜川への合流点 | 13.407 |
| おさざわがわ 小沢川 | 伊那市伊那1001番の96地先 同市同大字1001番の11地先 | 天竜川への合流点 | 6.976 |
| あなざわがわ 穴沢川 | 伊那市伊那穴沢8872番の1地先の市道橋 | 小沢川への合流点 | 1.550 |
| おおしみずがわ 大清水川 | 伊那市西箕輪字古屋敷3180番地先の市道橋 | 天竜川への合流点 | 6.900 |
| いせがわ 棚沢川 | 伊那市手良野口字山ノ神1730番地先の市道橋 | 天竜川への合流点 | 6.000 |
| つちおきたがわ 土王田川 | 伊那市美篁字土王田1616番地先 同市同大字同字1619番の1地先 | 棚沢川への合流点 | 2.200 |
| おおいずみがわ 大泉川 | 伊那市西箕輪1479番地先 同市大字南箕輪字仲川原6287番地先 | 天竜川への合流点 | 6.649 |
| あざがわ 瀬沢川 | 伊那市手良沢岡字南垣外423番の1地先 同市同大字字中垣外484番の4地先 | 天竜川への合流点 | 3.200 |
| やまつがわ ハツ手川 | 伊那市手良沢岡字小屋畑1300番地先 同市同大字字カラン田1528番地先 | 瀬沢川への合流点 | 0.600 |
| あらかわ 沢岡川 | 伊那市手良沢岡字垣外521番の1地先 同市同大字字中村前1156番地先 | 瀬沢川への合流点 | 1.450 |
| おひなしがわ 帯無川 | 上伊那郡箕輪町大字中箕輪字帯無山14616番地先 | 天竜川への合流点 | 5.232 |
| あさざわがわ 深沢川 | 上伊那郡箕輪町大字中箕輪字深沢山御堂7205番の6地先 同町同大字同字7205の5地先 | 天竜川への合流点 | 4.849 |
| きたのさわがわ 北の沢川 | 上伊那郡箕輪町大字中箕輪字民部3735番地先 同町同大字字北の沢5313番地先 | 深沢川への合流点 | 1.350 |
| あらかわ 沢川 | 諏訪市大字湖南字ハシカミ8625番のイ地先の市道橋 | 天竜川への合流点 | 18.658 |
| いちのさわがわ 一の沢川 | 上伊那郡箕輪町大字東箕輪字日向入山の内日沢地先 | 沢川への合流点 | 5.559 |
| あさざわがわ 桑沢川 | 上伊那郡辰野町大字伊那富字山越9198番の5地先 同郡箕輪町大字中箕輪字北原2034番の83地先 | 天竜川への合流点 | 3.120 |
| いせがわ 樋の沢川 | 上伊那郡辰野町大字樋口字樋口1110番の1地先 同町同大字同字53番地先 | 天竜川への合流点 | 0.700 |
| あなざわがわ 北之沢川 | 上伊那郡辰野町伊那富字山口5326番の4地先 同町伊那富字日影6257番地先 | 天竜川への合流点 | 3.161 |
| あさざわがわ 沢底川 | 上伊那郡辰野町大字沢底字青山1258番2地先の町道橋 | 天竜川への合流点 | 4.856 |
| あらかわ 横川川 | 上伊那郡辰野町大字横川字大洞谷川地先 | 上伊那郡辰野町大字辰野字下河原1716番地の1地先の鉄道橋下流端 | 16.279 |
| こまにかわがわ 小横川川 | 上伊那郡辰野町大字伊那富字大持沢2075番地先 同町同大字字アバラ2073番地先 | 横川川への合流点 | 8.502 |
| おのがわ 小野川 | うなぎ平川の合流点 | 横川川への合流点 | 9.210 |
| いらいがわ 飯沼川 | 上伊那郡辰野町大字小野字大栗沢4114番地先 同町同大字字曲尾4370番の1地先 | 小野川への合流点 | 4.500 |
| こまざわがわ 駒沢川 | 上伊那郡辰野町大字小野字駒沢5985番の1地先 | 小野川への合流点 | 3.900 |
| あさだがわ 前田川 | 刈谷沢の合流点 | 小野川への合流点 | 1.680 |
| うまのがわ 上野川 | 諏訪市大字豊田字下赤坂6215番の1地先 | 天竜川への合流点 | 6.965 |
| こまのたがわ 鴻の田川 | 諏訪市大字豊田字前田通6505番の1地先 同市同大字字道下通6515番地先 | 上野川への合流点 | 1.200 |
| あさざわがわ 前沢川 | 上伊那郡辰野町大字平出字沢入口672番の1地先の上流端を示す標柱 | 天竜川への合流点 | 1.100 |
| 合 計 | | | 497.679 |

第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

河川敷や堤防天端の利用については、沿川住民や自治体との連携を図りながら適正利用に努めます。

横川川においては、渇水時に流水が不足し、河川環境の悪化等が懸念されるために、横川ダムで流水の正常な機能の維持に必要な流量確保を行うこととし、既存水利流量を勘案し、表-3に掲げる地点において、同表に掲げる水量を確保するよう努めます。

表-3 横川川の主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量
(単位：m³/s)

| 地点名 | 期 間 | 水 量 |
|------|----------------|-------|
| ダム地点 | 1月1日 ~ 4月30日 | 0.030 |
| | 5月1日 ~ 5月10日 | 0.204 |
| | 5月11日 ~ 5月31日 | 0.247 |
| | 6月1日 ~ 9月30日 | 0.204 |
| | 10月1日 ~ 12月31日 | 0.030 |
| 下横川堰 | 1月1日 ~ 4月30日 | 0.259 |
| | 5月1日 ~ 5月10日 | 0.489 |
| | 5月11日 ~ 5月31日 | 0.589 |
| | 6月1日 ~ 9月30日 | 0.489 |
| | 10月1日 ~ 12月31日 | 0.259 |

また、沢川においては、渇水時に流水が不足し、河川環境の悪化等が懸念されるために、箕輪ダムで流水の正常な機能の維持に必要な流量確保を行うこととし、河川の低水流況、既存水利流量の確保、景観、動植物の保護、流水の清潔の保持等を勘案し、表-4に掲げる地点において、同表に掲げる水量を確保するよう努めます。

表-4 沢川の主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量
(単位：m³/s)

| 地点名 | 期 間 | 水 量 |
|------|----------------|-------|
| ダム地点 | 1月1日 ~ 12月31日 | 0.110 |
| 福沢地点 | 1月1日 ~ 3月31日 | 0.341 |
| | 4月1日 ~ 4月20日 | 0.440 |
| | 4月21日 ~ 5月10日 | 0.638 |
| | 5月11日 ~ 5月31日 | 0.723 |
| | 6月1日 ~ 6月10日 | 0.611 |
| | 6月11日 ~ 8月31日 | 0.607 |
| | 9月1日 ~ 9月20日 | 0.552 |
| | 9月21日 ~ 9月30日 | 0.421 |
| | 10月1日 ~ 12月31日 | 0.341 |

天竜川（釜口水門～横川合流点）においては、渇水時に流水が不足し、河川環境の悪化が懸念されることから、既存水利流量の確保、景観、動植物の保護、流水の清潔の保持等を勘案し、釜口水門において責任放流量 8.4m³/s を放流し、水量の確保に努めます。

また、異常渇水時には関係者と連携し、節水等の広報活動を行うとともに、必要に応じて利水関係者間の利用調整のための情報提供に努めます。

他の河川については、各河川の水利用の実態や地元住民の意見を参考に、優先度の高い河川については、取水状況の把握や流況等のデータの蓄積及び動植物の保護、流水の清潔の保持等について必要な調査・検討を行い、正常流量の設定に努めます。

第5節 河川環境の整備と保全に関する目標

良好な河川環境や景観の保全に努め、河川改修に当たっては瀬や淵の保全、自然石等を取り入れた護岸等の採用及び動植物への工事に伴う影響を極力減らし、良好な生息、生育環境の保全・復元に努めます。

さらに、河川空間の利用がなされている区間を整備する際は、河川と堤内地との連続性を確保できるように階段などの施設を適当な間隔で設置し、人が川により親しむことのできる環境の整備、親水性の確保に努めるものとします。

特に、辰野町は「ホテルの里」であることをまちづくりの基本としており、農業水路や湧水を中心に多数のホテルが生息しているため、流域住民と協力し、ホテルの生息環境の保全に努めます。

第6節 河川の維持管理に関する目標

河川の維持管理に関しては、河川の現状や地域の特性を踏まえつつ、洪水などによる災害発生の防止又は軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全などの観点から、堤防、ダム、樋門等の河川管理施設の機能について定期的に点検を行い、一定の水準を確保します。

さらに、今後、脆弱化や老朽化の進行が見込まれる河川管理施設については、長寿命化計画を策定し、計画的かつ効率的な維持修繕を行います。また、本来備えるべき機能を発現できない恐れのある河川管理施設については、必要に応じて改築・補修・修繕等を行います。

大規模な出水に対しては、護岸や堤防の状況を把握し、必要に応じて決壊防止対策を行います。

さらに、河道内に繁茂した樹木や堆積土砂については、流水の阻害とならないよう、適切に除去します。また、実施にあたっては、自然石の設置により魚類等にとって良好な環境を保全する等、動植物の生息・生育・繁殖環境への影響に配慮するよう努めます。

第3章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに該当河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

本文に記載する河川は、河川整備計画の目標を実現させるための具体的な方策として、計画的な河川整備を行う河川とします。

【天竜川】

1 河川工事の目的

釜口水門からの放流量 $500\text{m}^3/\text{s}$ に対し、側方掘削・根固工等により流下能力の確保を図り、岡谷市川岸地区及び岡谷市湊地区において、計画高水位以下の水位で安全に流下させることを目的とします。

2 施行の場所及び整備の内容

(1) 施行の場所

昭和橋^{しょうわし}から上流 9.4km から 10.3km までの 0.9km 間及び 10.9km から 11.4km までの 0.5km の約 1.4km の区間

(2) 河川整備の種類

側方掘削、根固工等

(3) 整備の内容

河川工事の実施に当たっては、可能な限り動植物の生息・生育に配慮した改修を基本とし、河川環境の保全に配慮した整備を行います。

特に、側方掘削・根固工等の施工の際には、現況の河床を考慮し、瀬や淵に配慮した整備を行います。

また、必要に応じて、水に親しむことのできる親水施設の整備を行います。

【小沢川】

1 河川工事の目的

50年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水（天竜川合流点で $228\text{m}^3/\text{s}$ ）に対し、護岸工事や河床掘削により流下能力の確保を図り、伊那市街地の荒井地区、川北地区の浸水被害を防止することを目的とします。

2 施行の場所及び整備の内容

(1) 施行の場所

室渡場橋^{しつとばし}上流 0.20km 地点から 0.61km 地点までの約 0.41km の区間

(2) 河川整備の種類

河床掘削、護岸工事等

(3) 整備の内容

河川工事の実施に当たっては、可能な限り動植物の生息・生育に配慮した改修を基本とし、河川環境の保全に配慮した整備を行い、河岸の緑化や景観、親水性に配慮した川づくりを行います。

【駒沢川】

1 河川工事の目的

30 年に 1 回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水（小野川合流点で 52m³/s）に対し、護岸工事や築堤工事及び橋梁架替により、流下能力の確保を図り、辰野町小野地区において家屋等への浸水被害を防止することを目的とします。

2 施行の場所及び整備の内容

(1) 施行の場所

小野川合流地点から上流約 3.76km の区間

(2) 河川整備の種類

護岸工事、築堤工事、橋梁架替等

(3) 整備の内容

施設等の整備が行われていない上中流区間の護岸整備を優先的に進め、下流区間の築堤工事やそれに伴う国道橋の架け替え等については、関係者と調整のうえ対応します。

河川工事の実施に当たっては、可能な限り動植物の生息・生育に配慮した改修を基本とし、河川環境の保全に配慮した整備を行い、河岸の緑化や景観、親水性に配慮した川づくりを行います。

【大沢川】

1 河川工事の目的

30 年に 1 回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水（天竜川合流点で 109m³/s）に対し、護岸工事や河床掘削により流下能力の確保を図り、伊那市東春近下殿島地区、田原地区の浸水被害を防止することを目的とします。

2 施行の場所及び整備の内容

(1) 施行の場所

こだま
蚕玉橋から竹松川合流地点までの約 2.19km の区間

(2) 河川整備の種類

護岸整備、河道拡幅、河床掘削、橋梁架替等

(3) 整備の内容

整備区間の一部には、現在計画されている国道 153 号伊駒アルプスロードが並走あるいは渡河する箇所があることから、実施にあたっては関係者と調整のうえ対応します。河川工事の実施に当たっては、可能な限り動植物の生息・生育に配慮した改修を基本とし、河川環境の保全に配慮した整備を行い、河岸の緑化や景観、親水性に配慮した川づくりを行います。

【大清水川】

1 河川工事の目的

30 年に 1 回程度の確率で発生すると予想される降雨により生ずる洪水（天竜川合流点で $80\text{m}^3/\text{s}$ ）に対し、護岸工事や河床掘削により流下能力の確保を図り、南箕輪村御子柴地区の浸水被害を防止することを目的とします。

2 施行の場所及び整備の内容

(1) 施行の場所

(一) 南箕輪沢渡線横断地点の上下流の約 0.23km の区間

(2) 河川整備の種類

護岸整備、河道拡幅、河床掘削、橋梁架替等

(3) 整備の内容

河川工事の実施に当たっては、可能な限り動植物の生息・生育に配慮した改修を基本とし、河川環境の保全に配慮した整備を行い、河岸の緑化や景観、親水性に配慮した川づくりを行います。

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

第1項 河川の維持の目的

河川の維持管理は、地域の特性を踏まえつつ、洪水による災害の発生の防止、軽減、河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、生物の成育・生息・繁殖環境に配慮した瀬・淵等の保全等、その影響の回避・低減に努め、良好な河川環境の整備と保全がなされるように行うものとします。

河川愛護団体や住民による河川愛護活動を支援することにより、住民参加による河川環境保全を推進します。

堤防・ダム・樋門等の河川管理施設が、洪水の際、確実に必要な機能が発揮されるように維持管理に努めます。

第2項 河川の維持の種類及び施行の場所

(1) 河川維持に関する項目

河道における土砂の堆積による流れの阻害やダム貯水池内の堆砂など治水上の支障となる場合は、環境に配慮しつつ堆積土砂の除去、立木伐採、草刈り等の必要な対策を行います。

(2) 河川構造物の維持に関する項目

護岸等の河川構造物の変状、異常の早期発見のため、河川愛護モニターによる河川巡視を行うとともに、河川管理者による堤防除草や定期的な河川巡視を行い、適切に点検を実施し、河川管理上支障をきたす場合は速やかに修繕等必要な対策を行います。

治水上の安全性を保持するために取水堰等の許可工作物でも洪水時の洗掘や河積の阻害等河川管理上の支障となるものは、施設管理者と協議の上適切な処置に努めます。また、施設の新築や改築に当たっては、施設管理者に対して治水上の影響を考慮の上、環境保全にも配慮するように指導を行います。

さらに、老朽化の進行が懸念されるダム、樋門等の河川管理施設については、長寿命化計画を策定し、効率的かつ計画的な維持修繕を行います。また、本来備えるべき機能を発現できない恐れのある河川管理施設については、必要に応じて改築・補修・修繕等を実施します。

横川ダム、箕輪ダムについては、ダム本体、貯水池及びダムに係る施設等を良好に保つために必要な計測・点検等を行い、その機能維持に努めます。

(3) 流水の正常な機能の維持に関する項目

圏域内の河川の水量、水質については、関連市町村、利害関係者、河川愛護団体及び漁業関係者等から積極的に情報を収集するとともに、河川パトロールや河川愛護団体等と連携を図り流水の状況の把握に努めます。

(4) その他

河川愛護に関する活動を支援し、河川環境改善の意識の向上に努めます。河川愛護活動を支援することにより、住民参加による河川環境の保全を促進するものとします。

第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

第1節 河川情報の提供に関する事項

第1項 減災に資する事項

雨量・水位情報をリアルタイムで収集し、関係機関に提供することにより、水防活動等の必要な対策への支援を迅速に行います。さらに、関係機関と連携し、公表済みの浸水想定区域や避難路等を記載したハザードマップの周知を図り、計画規模や現況流下能力を超える洪水に対し、地域住民の水害に対する防災意識の向上を図り、水害発生時の迅速な避難行動を支援します。

第2項 河川に関する情報提供

パンフレット配布、イベントの開催及びホームページへの掲載等により、河川事業の紹介や河川に関する情報の提供を行い、河川事業に関して広く理解を得られるように努めます。

また、洪水時においては、住民がより適切な避難判断をできるよう、設置した危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラから得られる河川情報が、インターネット等を通じてリアルタイムで提供できるよう取り組みます。

第3項 水質事故等への対応

水質事故、濁水被害等が発生した際には、事故状況の把握、関係機関への連絡、河川や水質の監視、事故処理等を原因者及び関係機関と協力して行います。

第2節 地域や関係機関との連携等に関する事項

第1項 水防活動への支援等

流下断面の不足や堤防高さの不足等により氾濫が予想される区域においては、連絡系統等を定めた水防計画を樹立し、関係機関と連携し、洪水被害を防止・軽減するための水防活動を支援します。

また、天竜川等に流入する河川の内水氾濫に対しても、関係機関との連携を図り、その被害の軽減に努めます。

第2項 開発行為に伴う流出量の低減

流域住民の視点に立った総合的な河川管理を行うため、治水上影響の大きい土地の改変を伴う開発行為に対しては流出量の低減のために関係部局と連携を図ります。

第3項 関係機関及び流域住民との連携

- (1) 総合的な土砂管理に関し、関係機関と連携し、情報共有を図ります。

(2) 河川は流域住民の生命・財産を洪水から守る治水施設としての役割はもちろんのこと、近年においては、貴重な水と緑の空間として人々にうるおいを与える役割も評価され、地域と河川の密接な関係を取り戻そうとする気運が高まっています。

こうした状況を踏まえ、計画、施工から維持管理に至る全ての段階において、流域に居住する住民や市町村等と連携を図り、地域ぐるみによる“川づくり”を目指していきます。

特に維持管理に関しては、河川愛護団体と連携した草刈り、ゴミ拾い等を通じ、河川美化活動・河川愛護活動の普及に努めるとともに、圏域各地で行われているアダプトプログラムを支援・拡充し、地域の住民・企業と新たなパートナーシップの形成を図っていきます。

また、河川が環境教育の場として有効に生かされるよう、河川管理者として支援・協力していきます。

(3) 釜口水門は諏訪湖からの唯一の放流箇所であり、過去から段階的に放流量を増加させているものの、洪水時には諏訪湖周辺や流入河川の沿川で浸水被害が繰り返し発生しています。こうした被害の軽減に向け、下流本川の改修状況とバランスを図りながら放流量については、関係機関と連携し検討していきます。



図-15 地域住民の協力による河川愛護活動

(4) 近年の水害の激甚化、頻発化を踏まえ、天竜川水系（上流）の河川管理者並びにダム管理者及び関係利水者は、「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針（2019年（令和元年）12月12日既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議決定）」に基づき、2020年（令和2年）5月29日に流域のダムで治水協定を締結しました。

事前放流は、大雨が降る前にダムの水位を下げ、治水に活用することにより洪水被害の防止・軽減を図ることを目的としており、伊那圏域の県が管理する横川ダム、箕輪ダ

ムにおいても治水協定に基づき事前放流の運用を開始しています。

第4項 かわまちづくりと連携した河川整備

圏域内の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指します。

第5項 流域治水の取り組み

近年の水災害による甚大な被害を受け、施設能力を超過する洪水が発生するものへと意識を改革し氾濫に備える「水防災意識社会」の再構築を進めてきました。2018年（平成30年）2月には、水防災意識社会再構築ビジョンに基づく伊那圏域大規模氾濫減災協議会が設置されています。

今後、この取り組みをさらに一歩進め、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、あらゆる関係者（国・県・市町村・企業・住民等）が協働して流域全体で対応する「流域治水」へと転換するため、流域全体でハード・ソフト一体の防災対策を加速します。このため、2020年（令和2年）8月には天竜川上流流域治水協議会が開催され、2021年（令和3年）3月に実施すべき対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として公表しました。

また、流域治水の取組を推進するため「長野県流域治水推進計画」が策定され、2021年度（令和3年度）からの5か年の計画期間における具体的な取組目標を定めました。これらの各取組を本格的に展開していくことで、計画を超える洪水や未改修河川（区間）での洪水による被害の軽減にもつながることから、今後も「流域治水」の推進に向けて、これらの方針に基づいた取組を進めていきます。

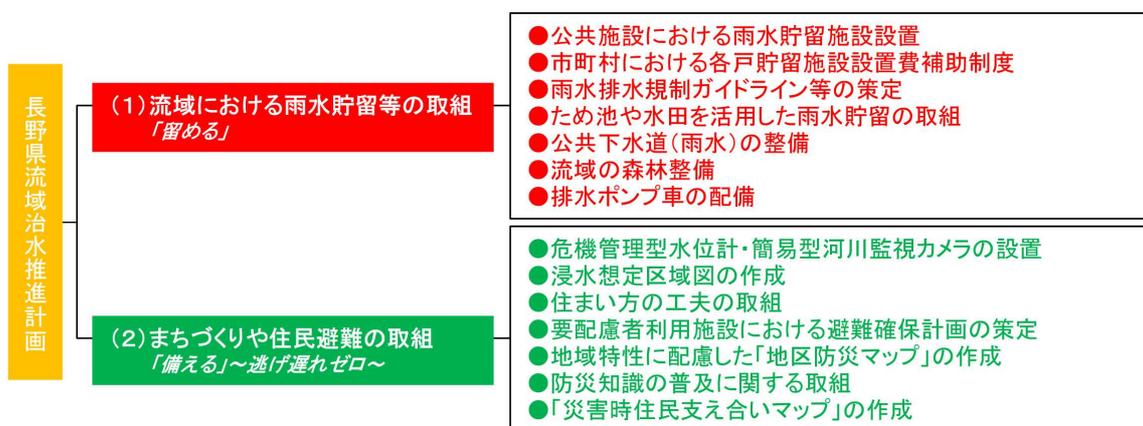


図-16 長野県流域治水推進計画の主な取組一覧

(長野県(2021)長野県流域治水推進計画概要より)

天竜川水系伊那圏域河川整備計画(附図)

○天竜川

| | | |
|-------------|------------------|------|
| 整備区間図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-1 |
| 縦断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-2 |
| 流量配分図・標準横断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-3 |

○小沢川

| | | |
|-------------|------------------|------|
| 整備区間図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-4 |
| 縦断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-5 |
| 流量配分図・標準横断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-6 |

○駒沢川

| | | |
|-------------|------------------|------|
| 整備区間図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-7 |
| 縦断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-8 |
| 流量配分図・標準横断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-9 |

○大沢川

| | | |
|-------------|------------------|-------|
| 整備区間図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-10 |
| 縦断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-11 |
| 流量配分図・標準横断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-12 |

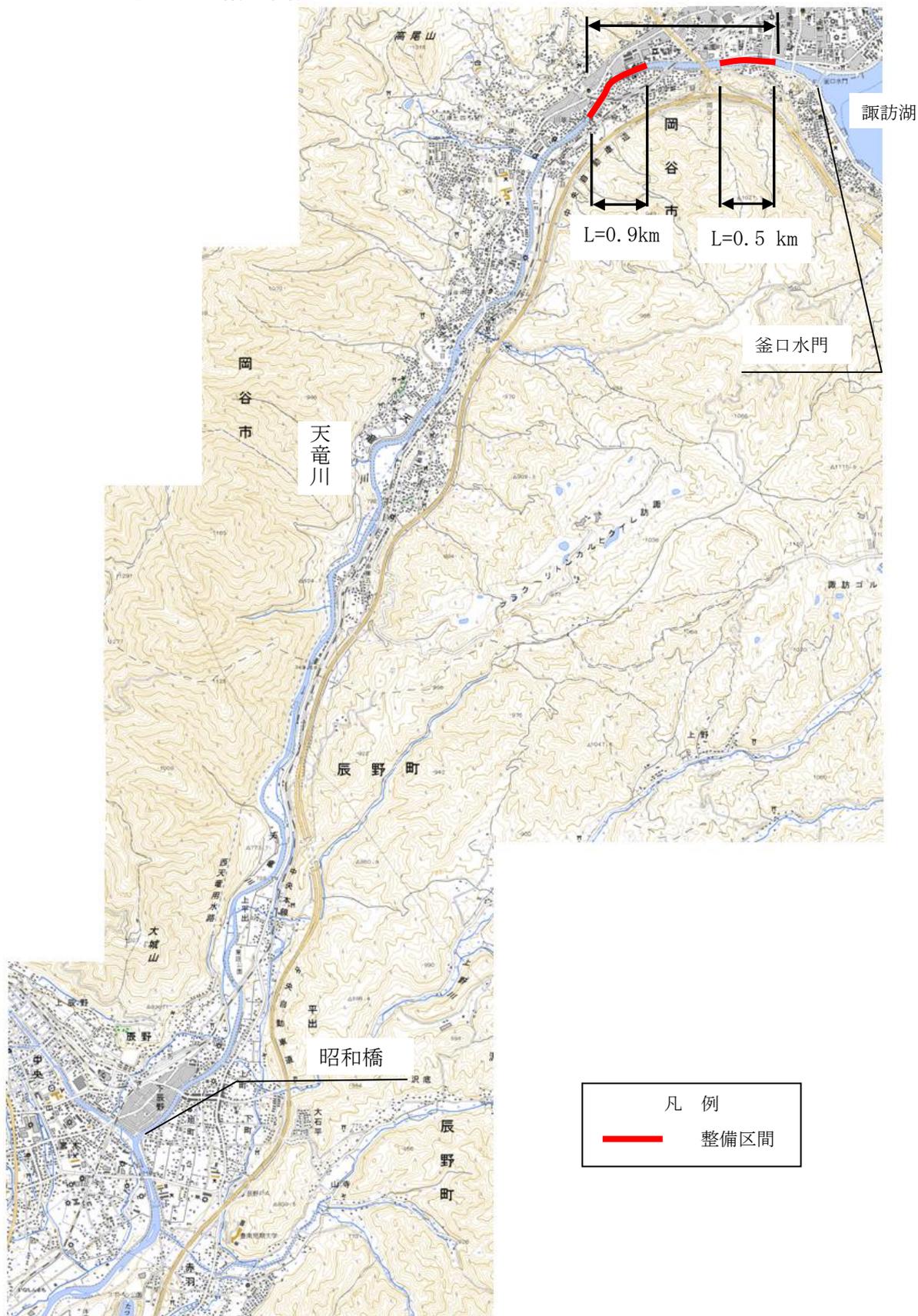
○大清水川

| | | |
|-------------|------------------|-------|
| 整備区間図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-13 |
| 縦断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-14 |
| 流量配分図・標準横断図 | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 附図-15 |

※本附図の詳細な位置や構造等については、今後の詳細設計等により変更することがあります。

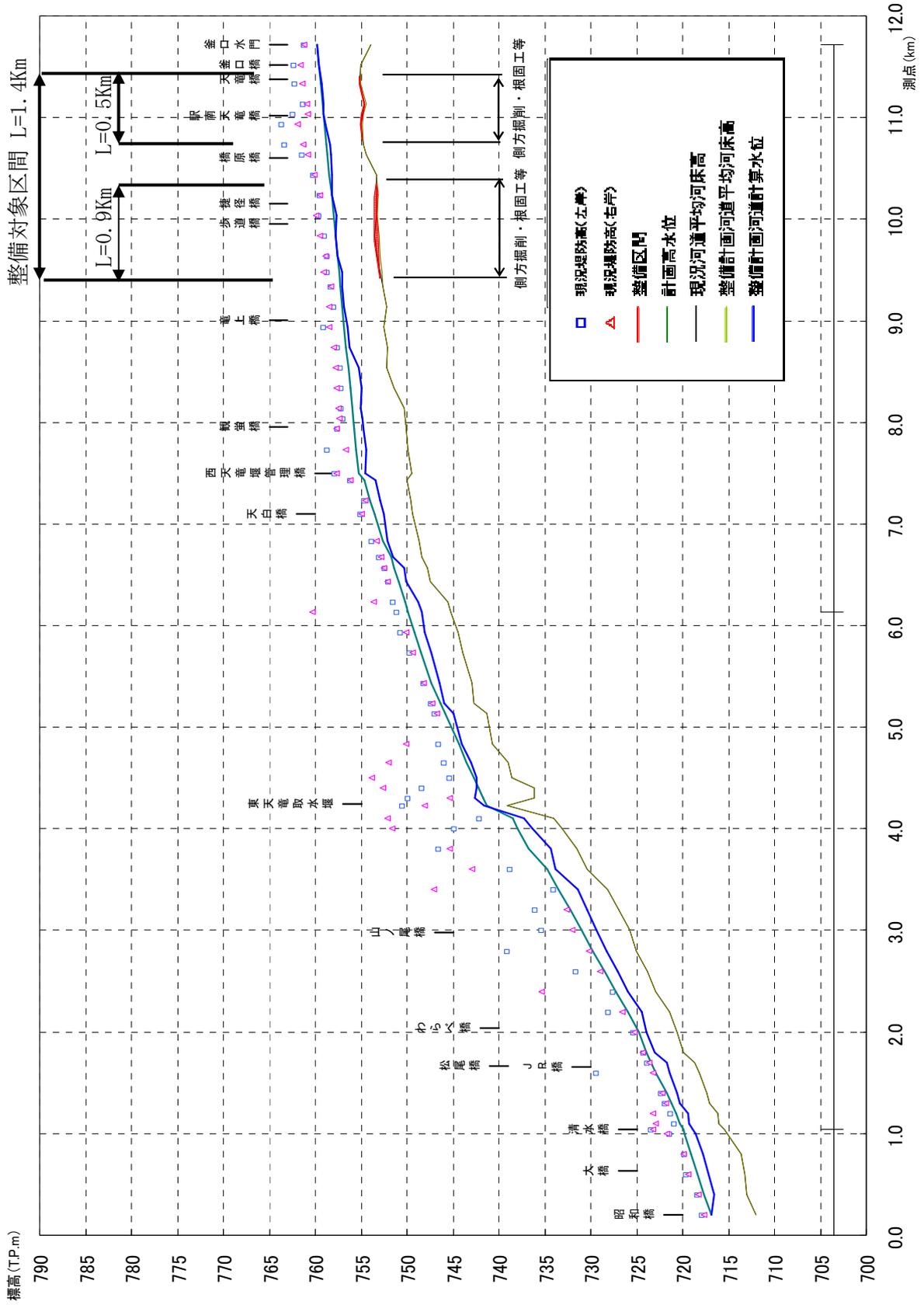
(一) 天竜川 整備区間図

整備対象区間 L=1.4km



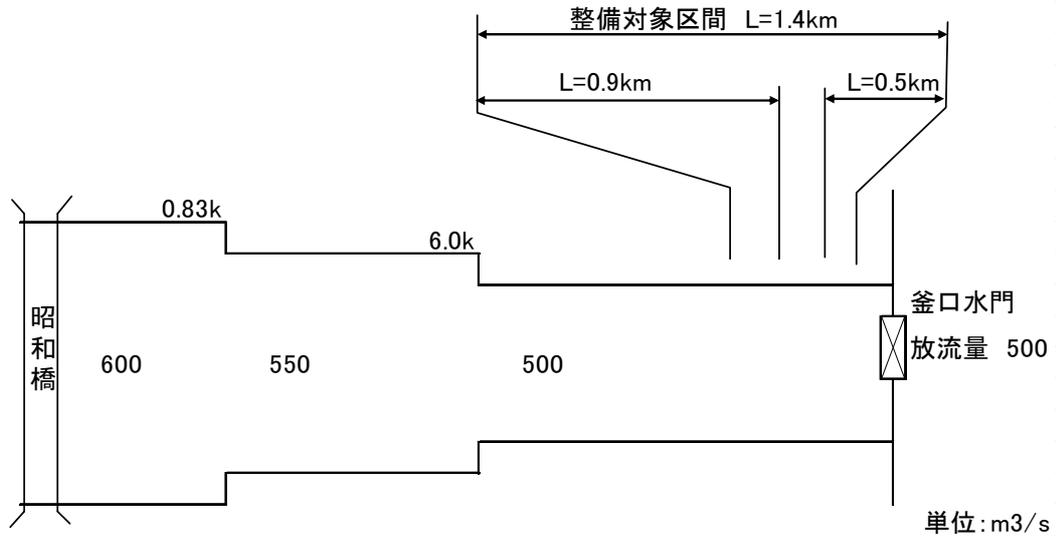
附図-1

(一) 天竜川 縦断図

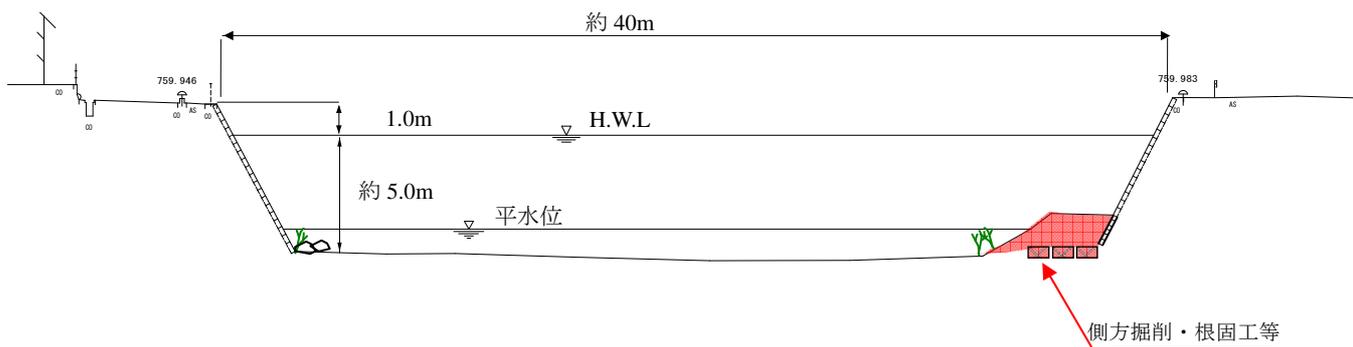


附図-2

(一) 天竜川 流量配分図



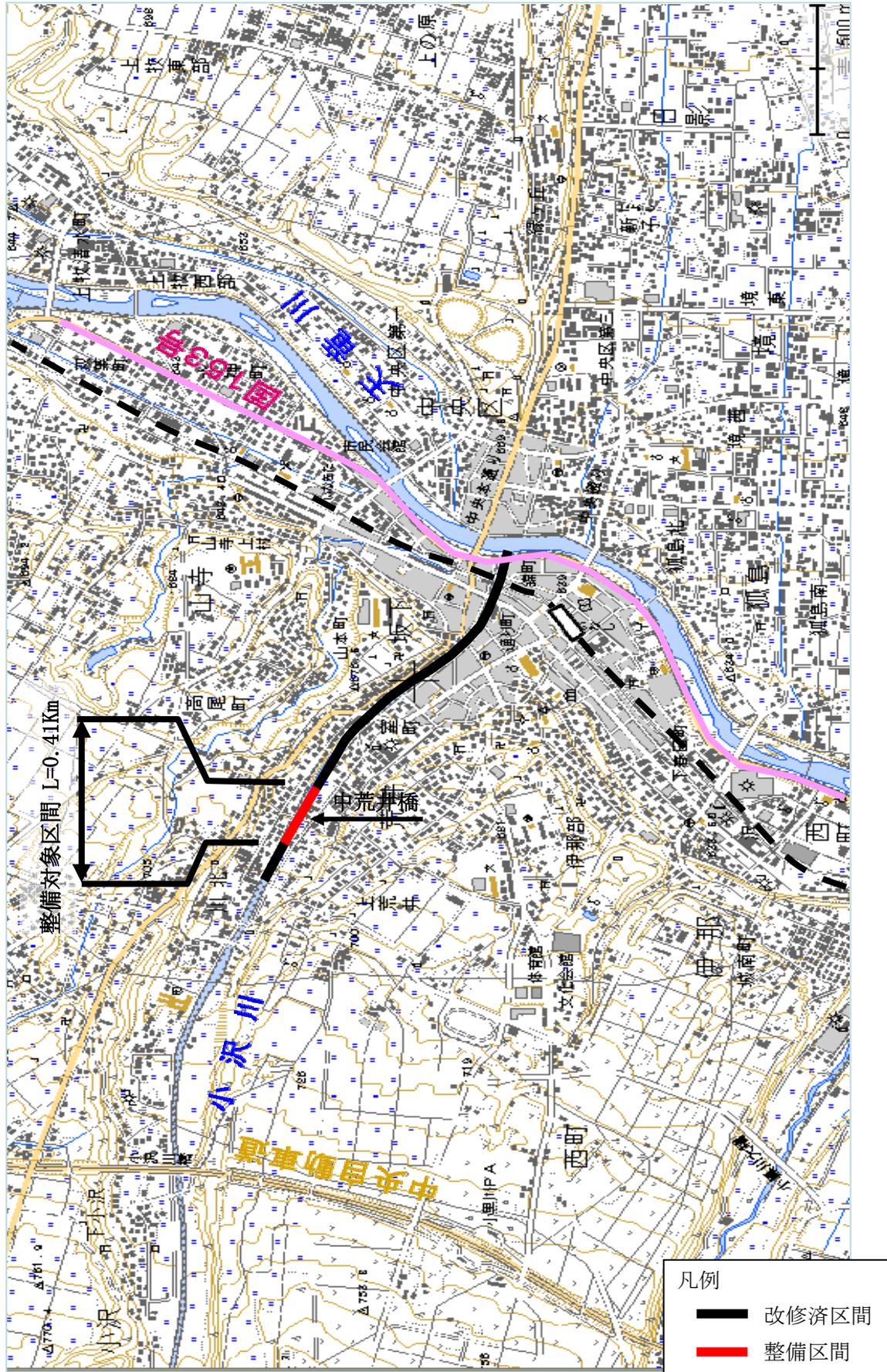
(一) 天竜川 標準横断面図



(イメージ図)

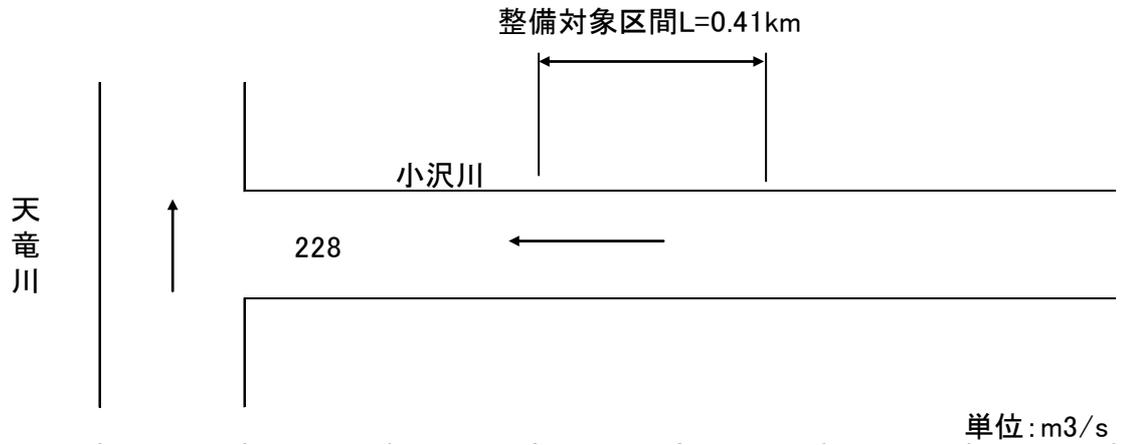
○側方掘削・根固工等の施工の際には、現況の河床を考慮し、瀬や淵、魚類の遡上・降下に配慮した整備を行う。

(一) 小沢川 整備区間図

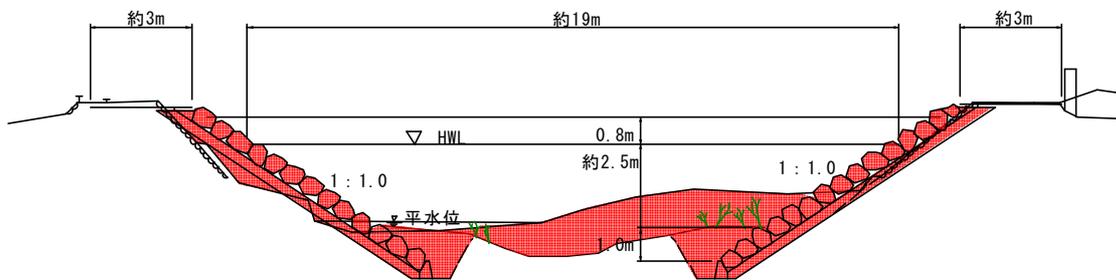


附図-4

(一) 小沢川 流量配分図



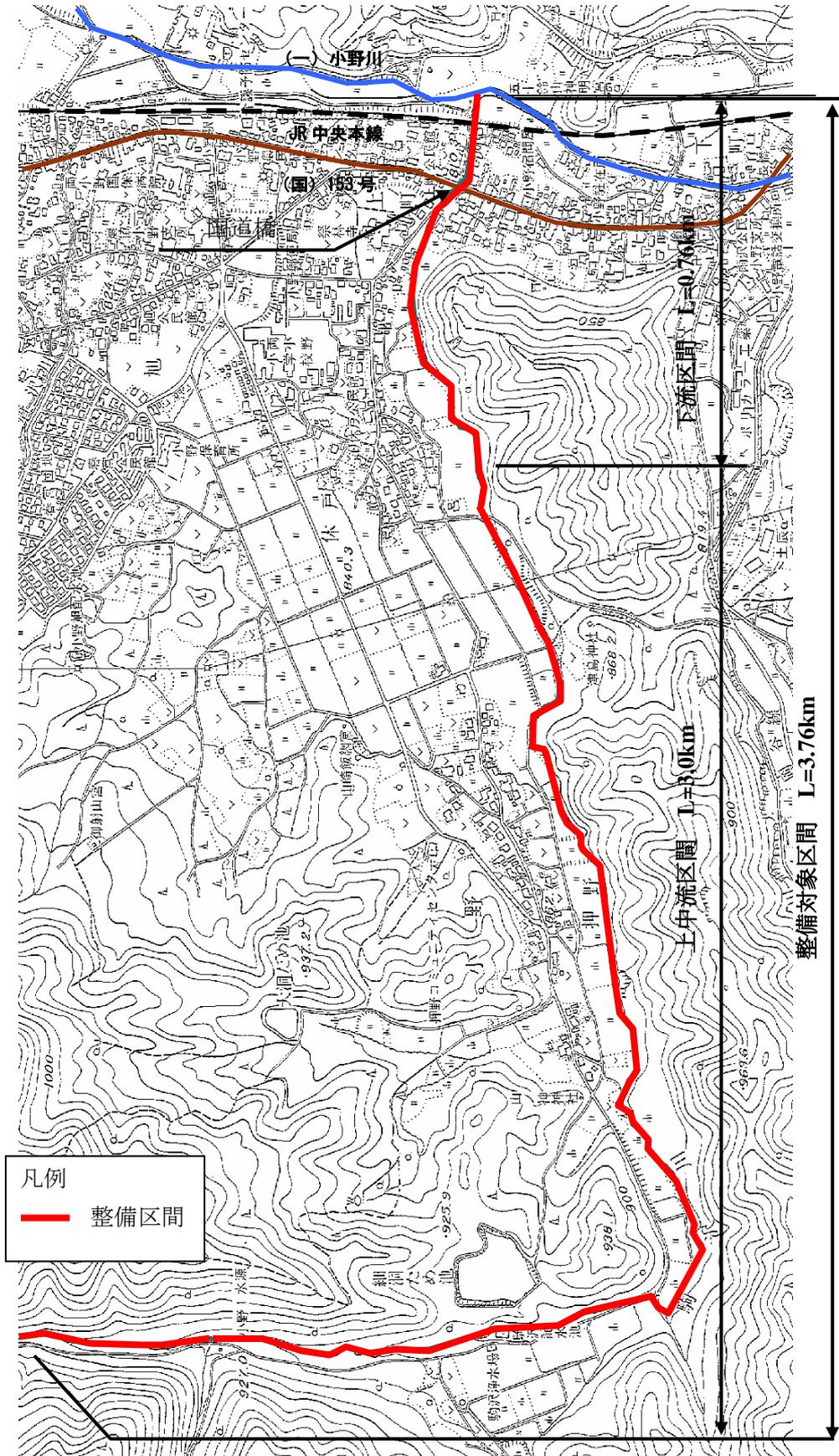
(一) 小沢川 標準横断面図



(イメージ図)

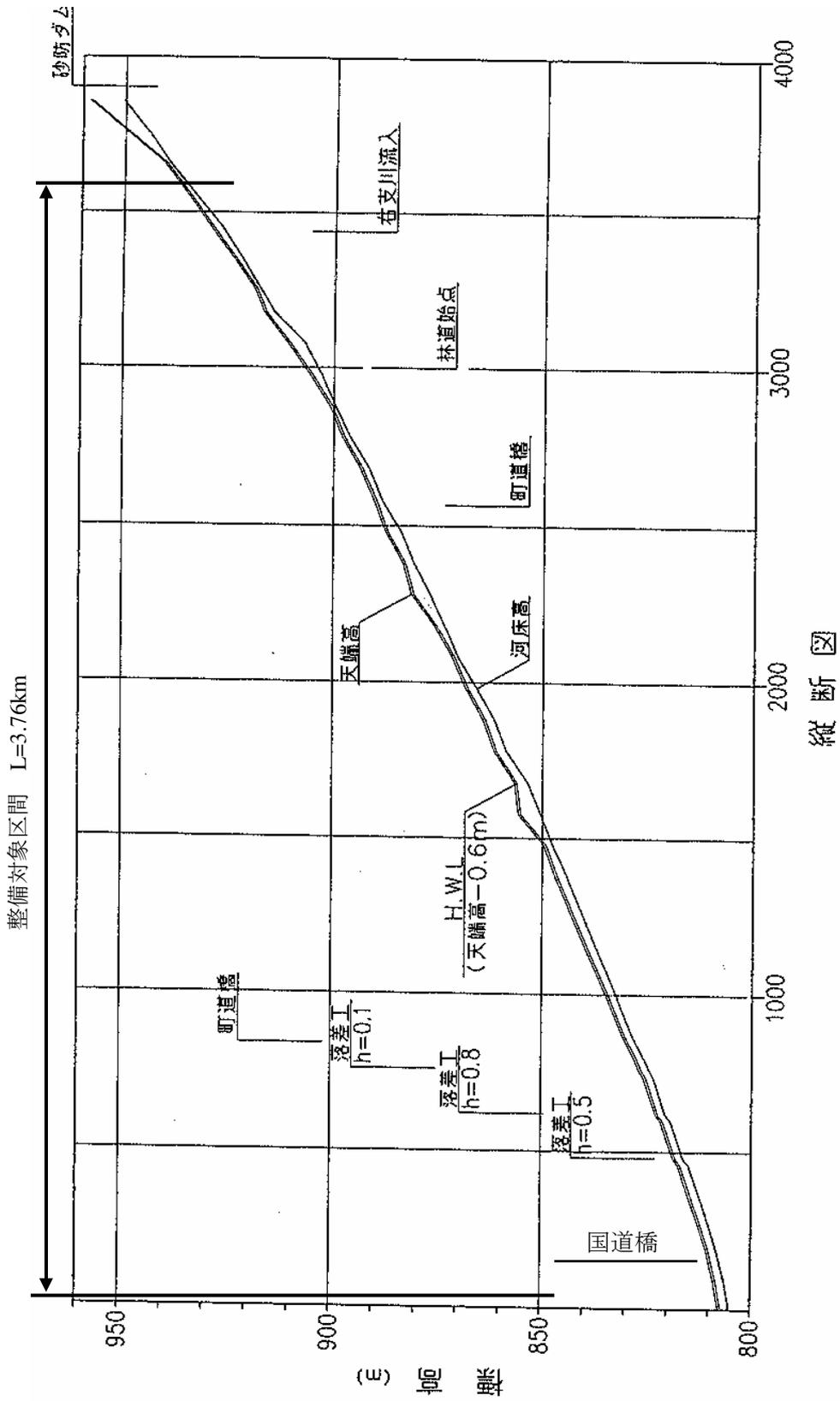
○河川環境の保全に努め、河岸の緑化や景観、親水性に配慮する。

(一) 駒沢川 整備区間図



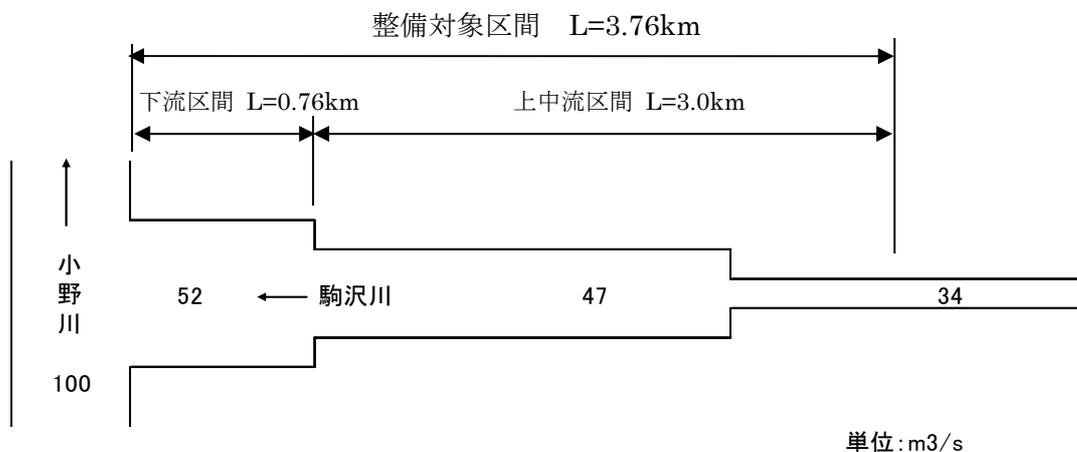
附図-7

(一) 駒沢川 縦断面図

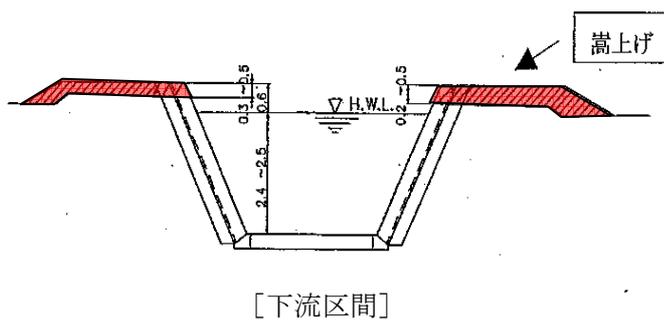
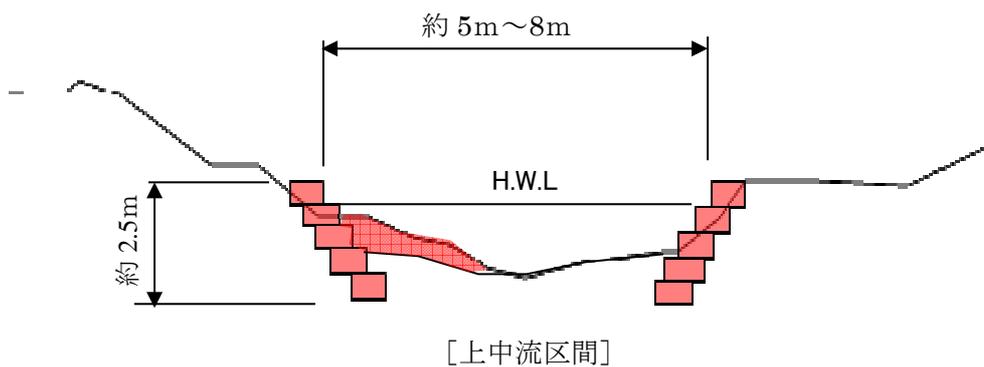


附图-8

(一) 駒沢川 流量配分図



(一) 駒沢川 標準横断面図



(イメージ図)

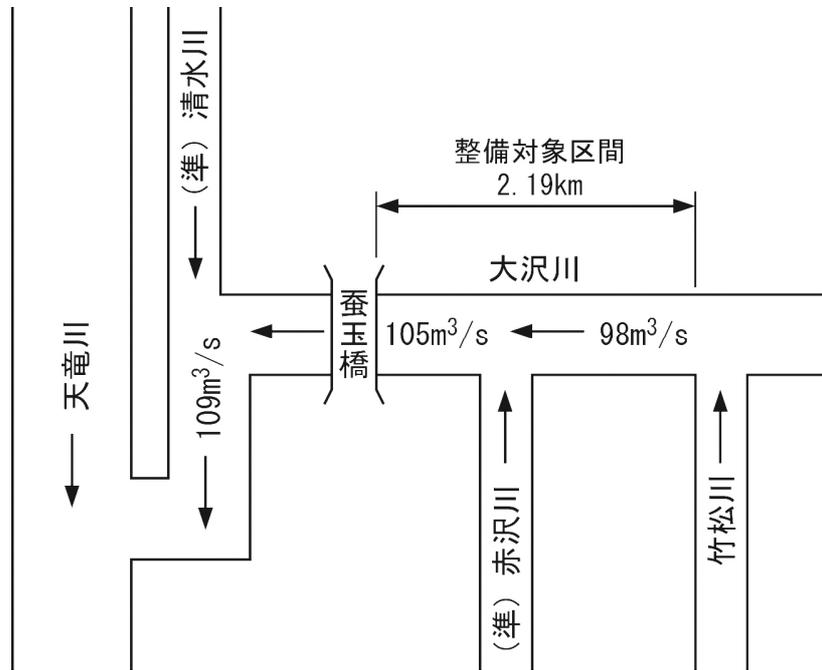
○河川環境の保全に努め、河岸の緑化や景観、親水性に配慮する。

(一) 大沢川 整備区間図

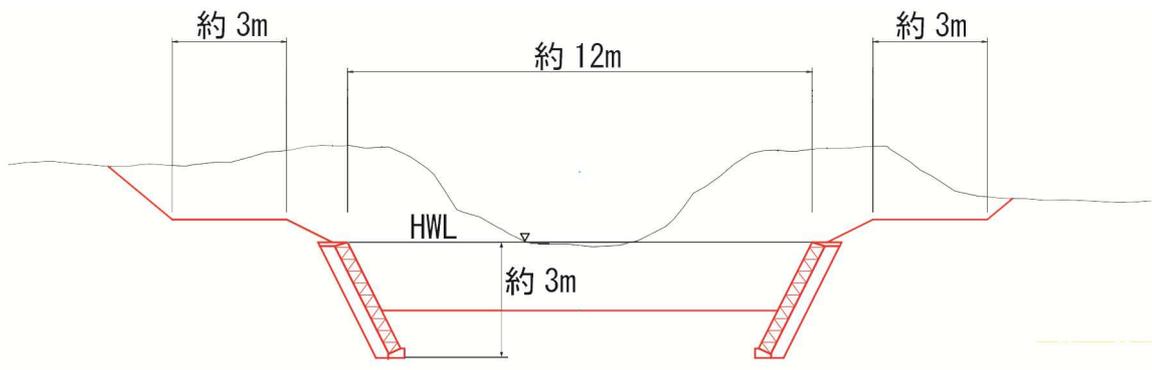


附图-10

(一) 大沢川 流量配分図



(一) 大沢川 標準横断面図

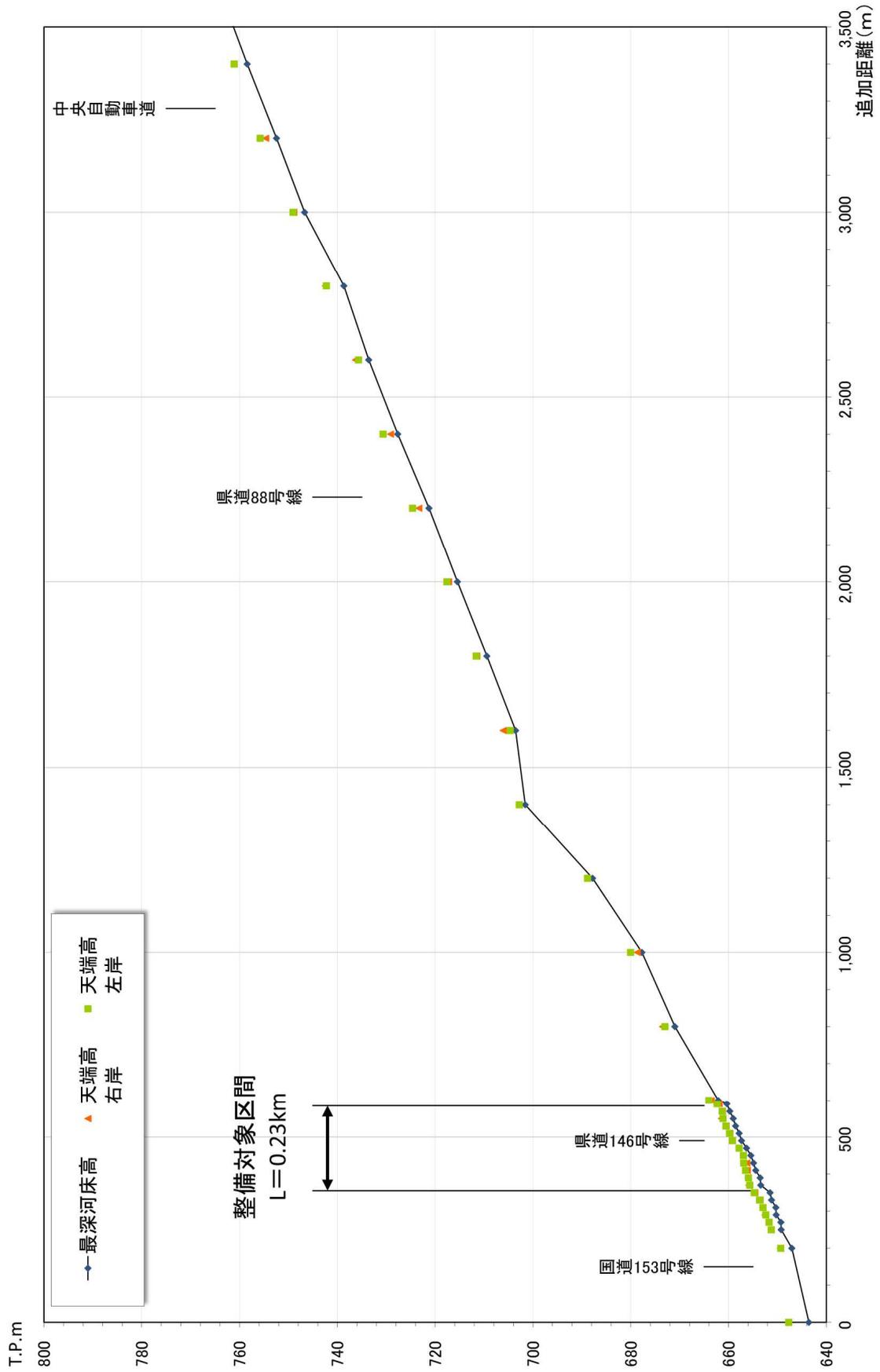


(イメージ図)

(一) 大清水川 整備区間図

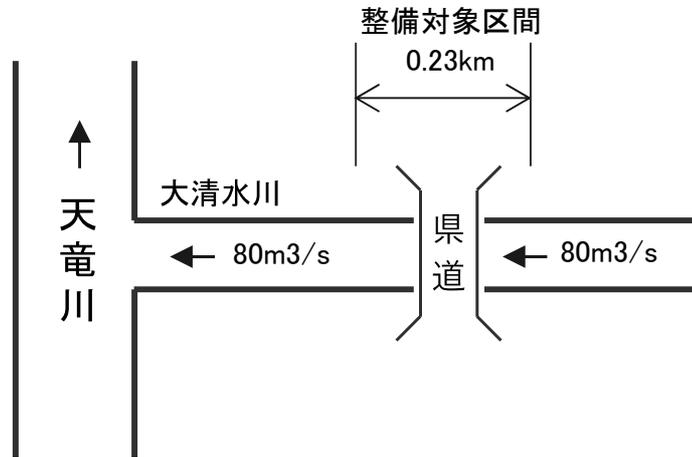


(一) 大清水川 縦断面図

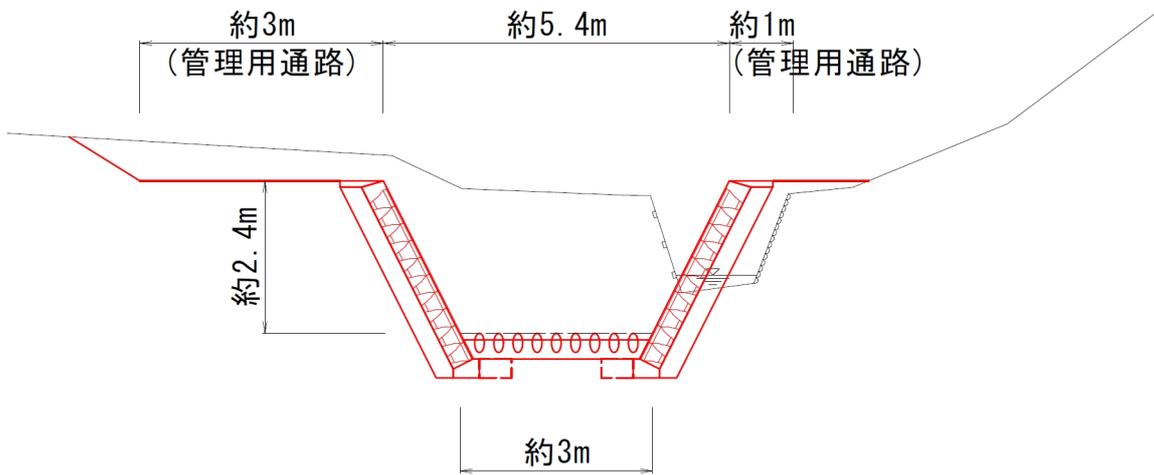


附图-14

(一) 大清水川 流量配分図



(一) 大清水川 標準横断図



(イメージ図)